

一般国道2号改築工事(福山道路・広島県福山市瀬戸町大字長和字柰田奥地内から同市赤坂町大字早戸字太夫崎地内まで)並びにこれに伴う市道、農業用道路及び特別高圧送電線付替工事

事業概要

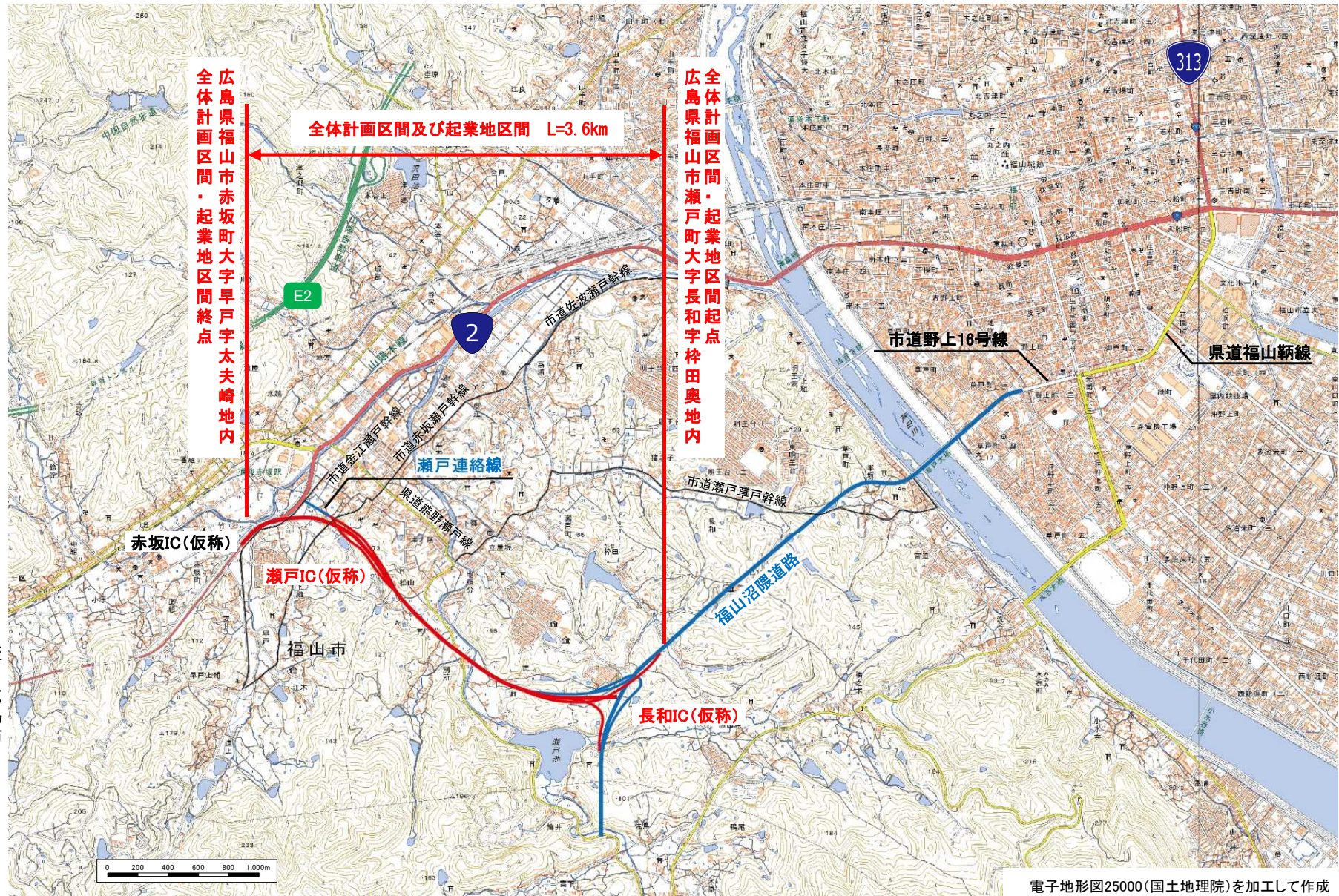
令和3年5月

【全体計画区間及び起業地区間】

起点：広島県福山市瀬戸町大字長和字梓田奥地内

終点：広島県福山市赤坂町大字早戸字太夫崎地内

(延長 3.6 km)

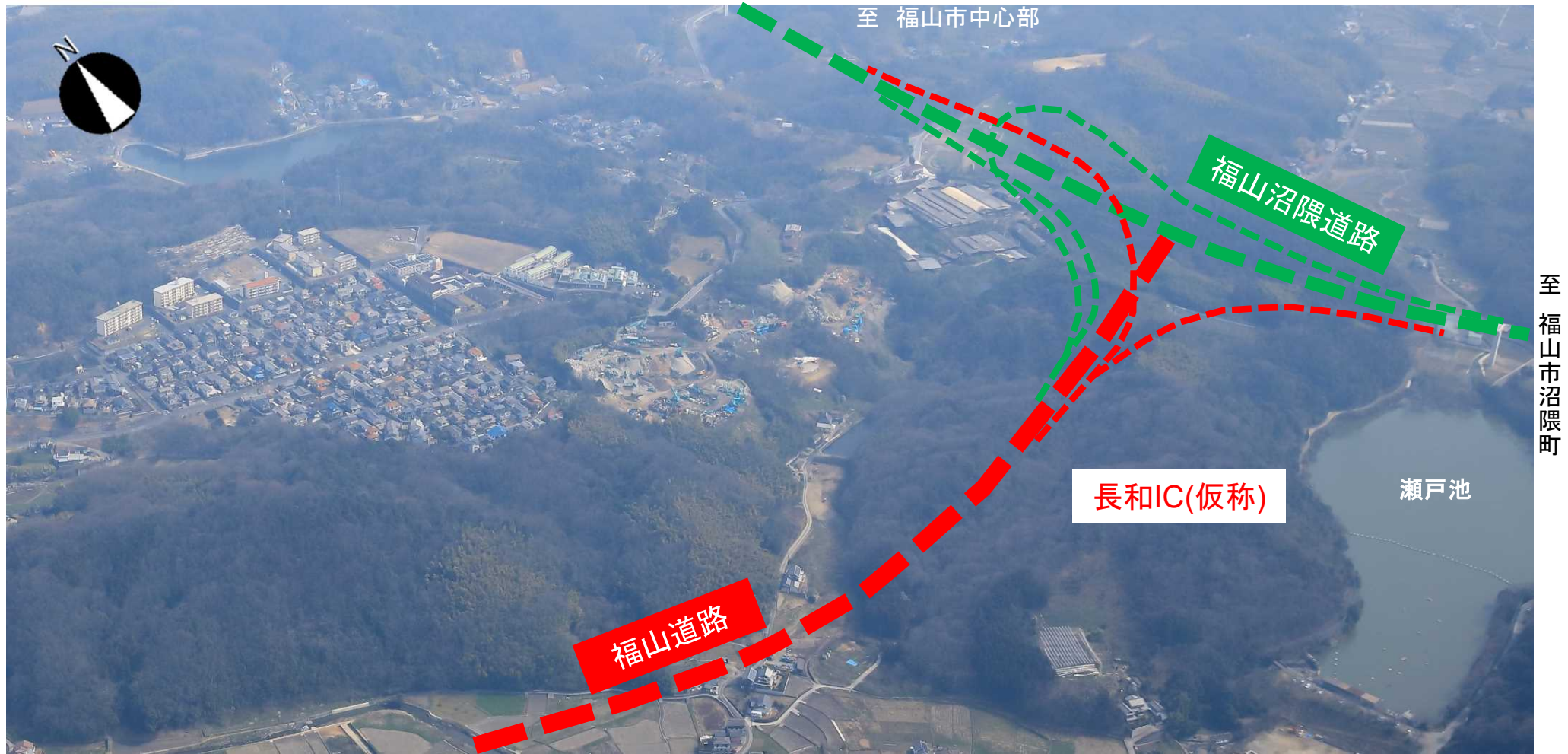
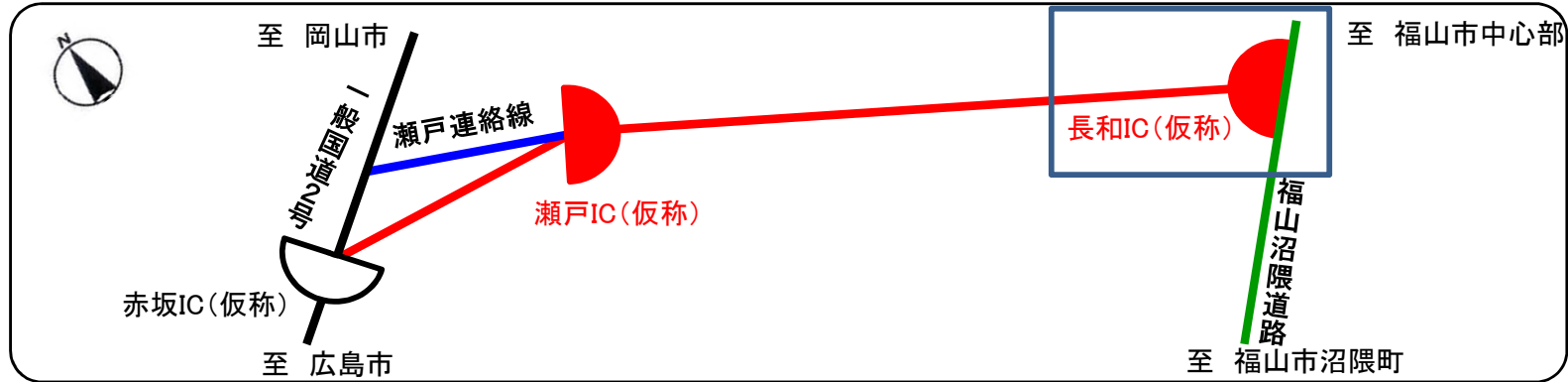


期 日	手続き	適 用
平成13年3月29日	都市計画決定	
平成18年7月	用地取得に着手	
令和元年12月22日	法15条の14の規程に基づく 事業説明会	広島県福山市
令和2年3月26日	事業認定申請	
令和2年4月6日 ～4月20日	短期縦覧	
令和2年12月18日 ～12月19日	公聴会	

※短期縦覧期間中に県知事あて提出された意見書 17通

※公聴会の開催請求 13通

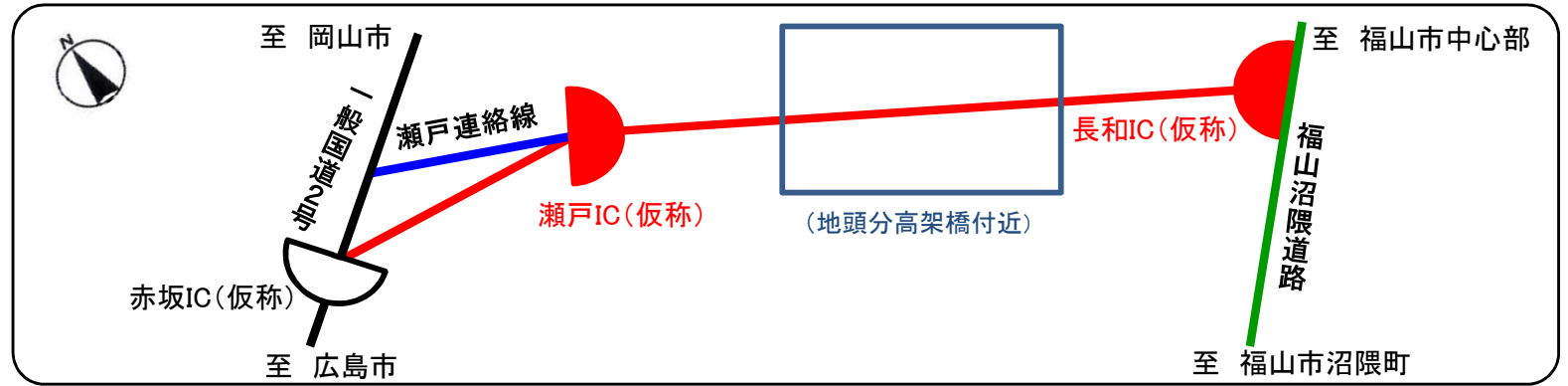
長和IC付近



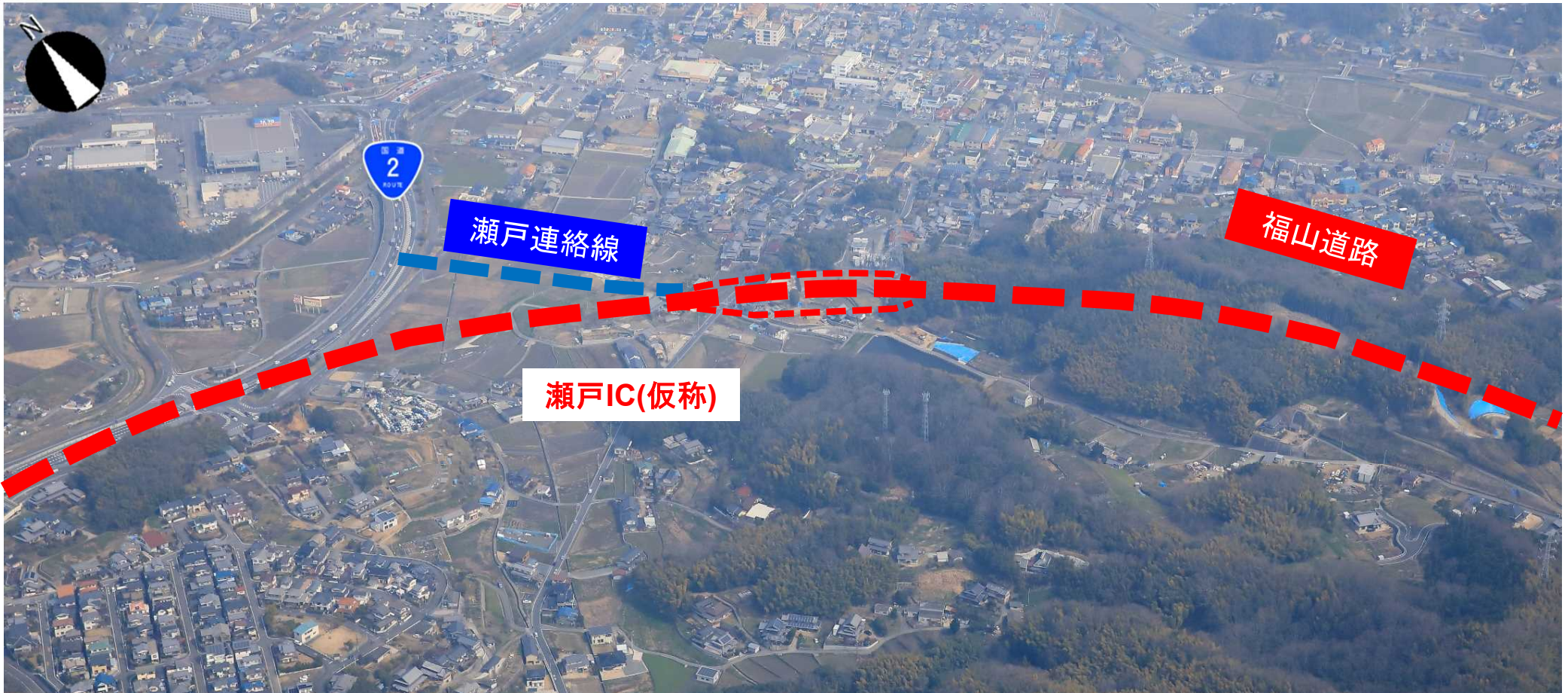
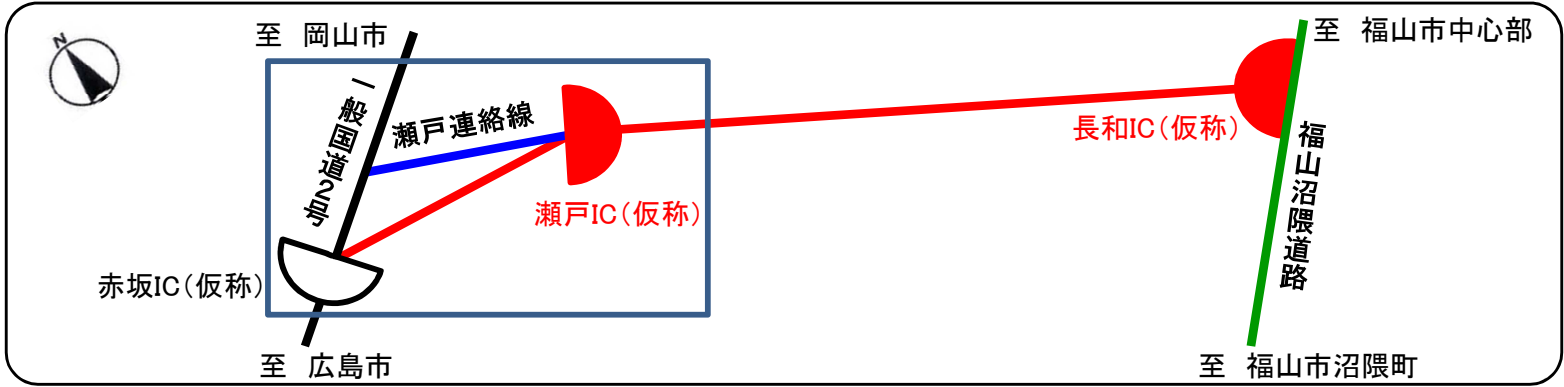
至 広島市

H31年3月撮影

瀬戸ICと長和ICとの 中間地点付近

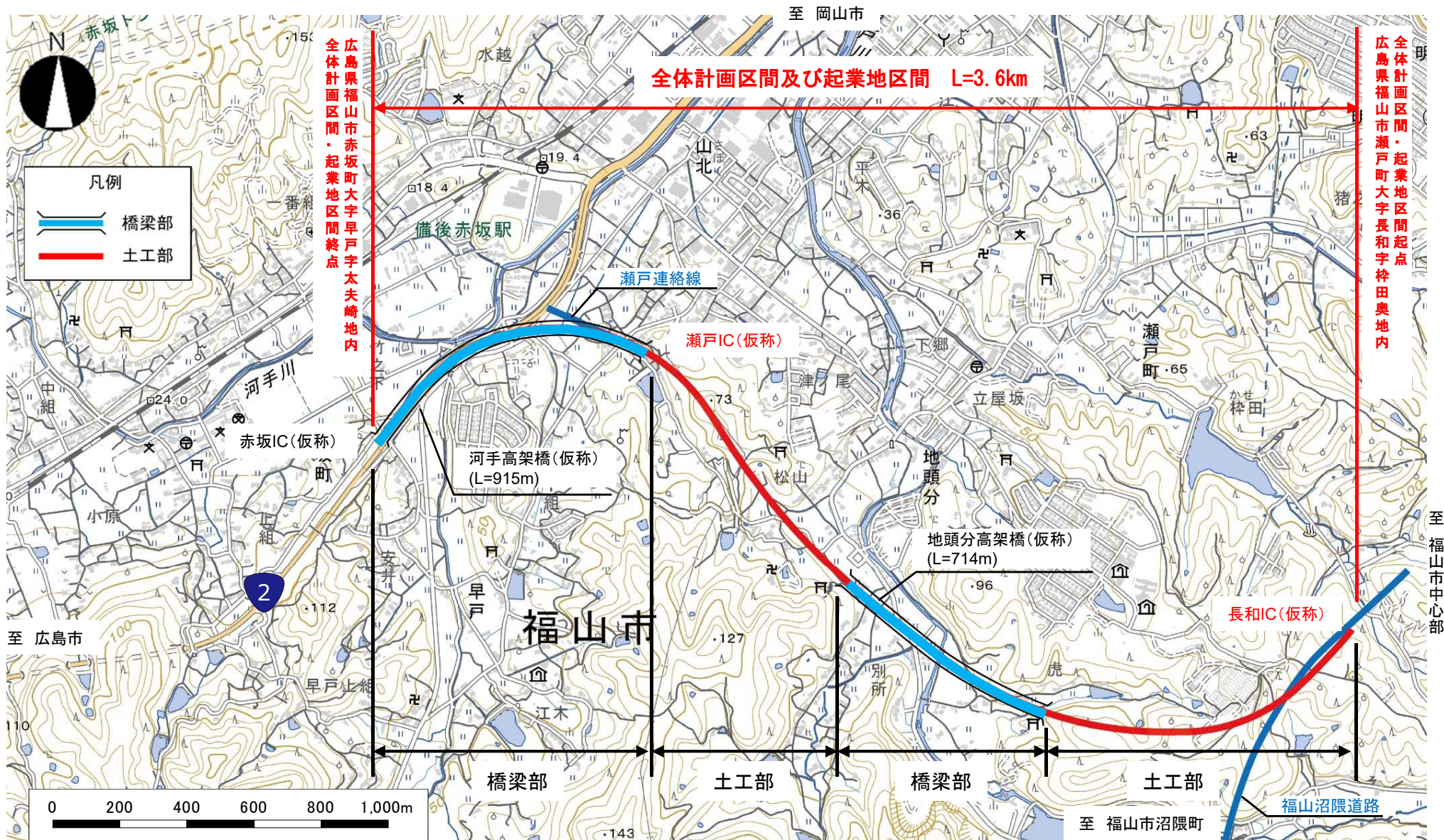


瀬戸IC付近



- 計画交通量 : 47,700台/日(令和12年推計)
- 道路区分 : 第1種第3級(山地部)
- 車線数 : 4車線
- 設計速度 : 80km/h

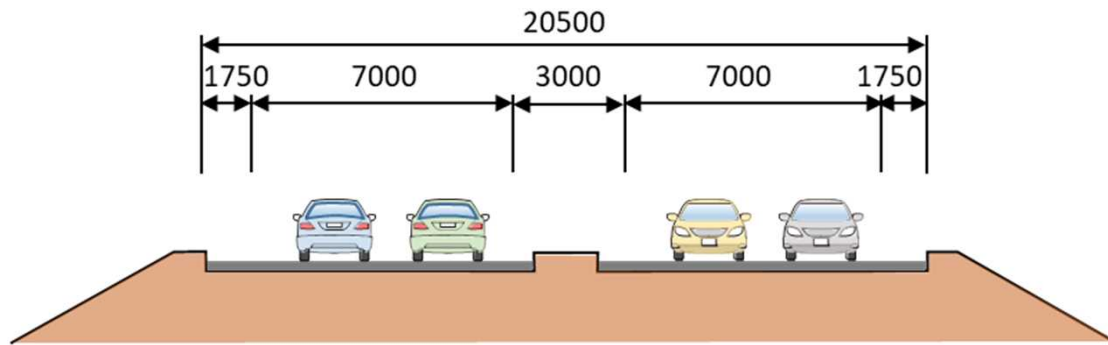
- 構造
- 土工部 : 2.0km
- 橋梁部 : 1.6km
- (全体 : 3.6km)



幅員構成(標準)

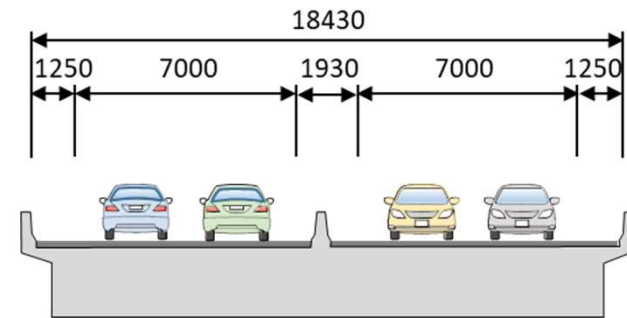
単位:mm

■土工部

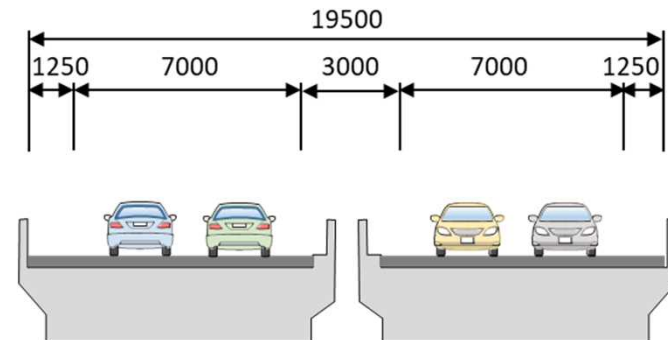


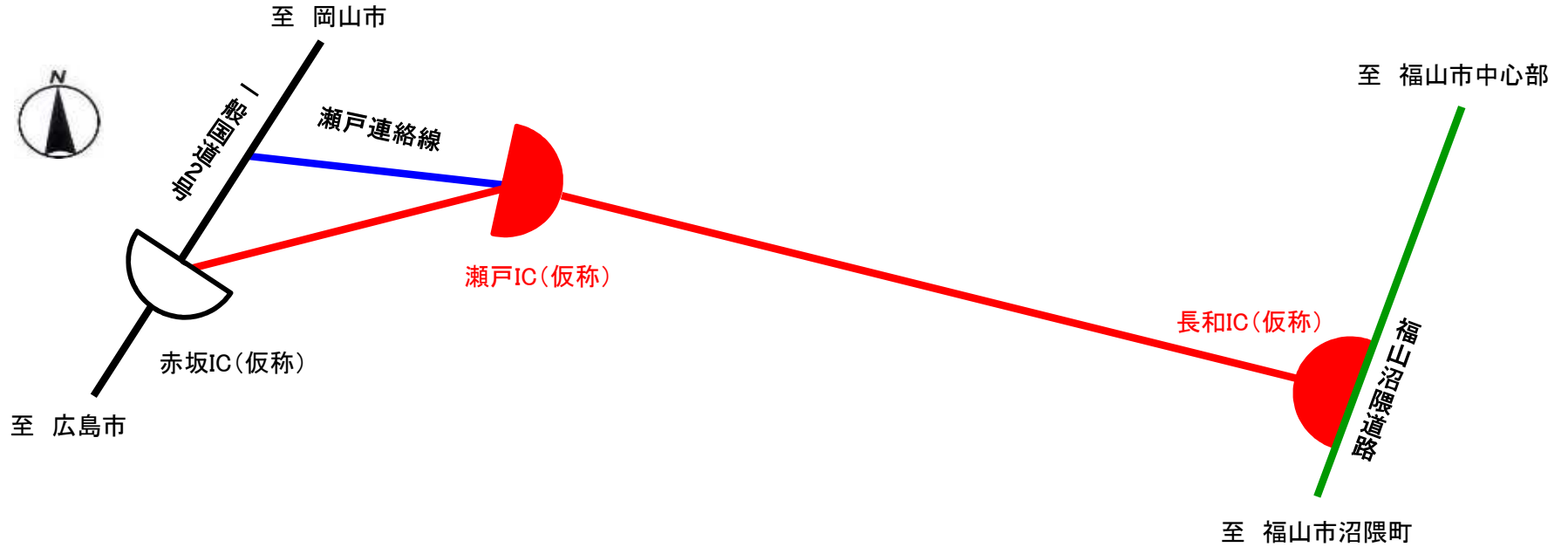
■橋梁部

【河手高架橋(仮称)】



【地頭分高架橋(仮称)】



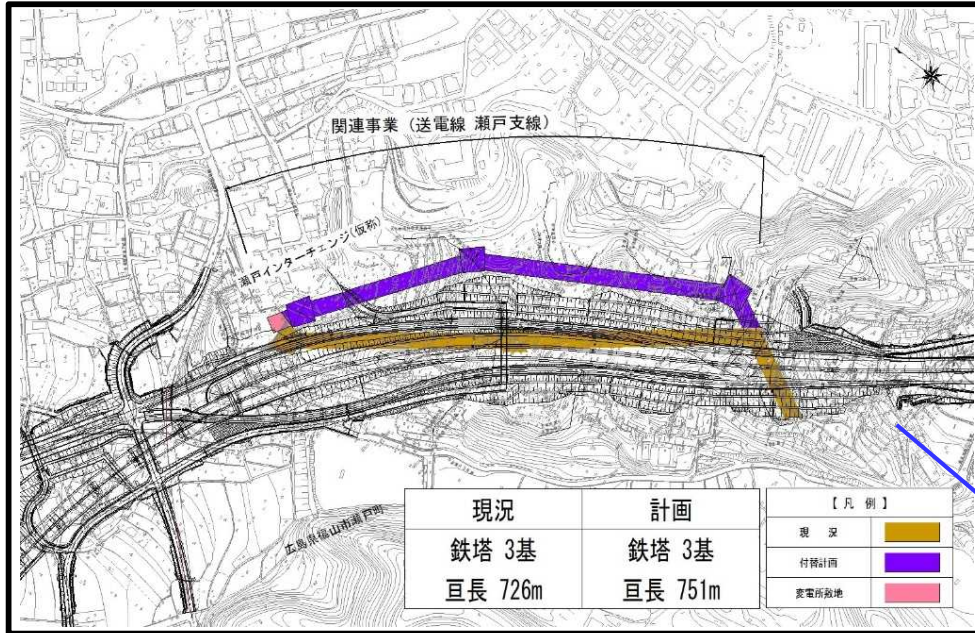


IC間距離		1. 3km	2. 3km
IC等名称	※赤坂IC(仮称)	瀬戸IC(仮称)	長和IC(仮称)
接続道路	一般国道2号	瀬戸連絡線	福山沼隈道路

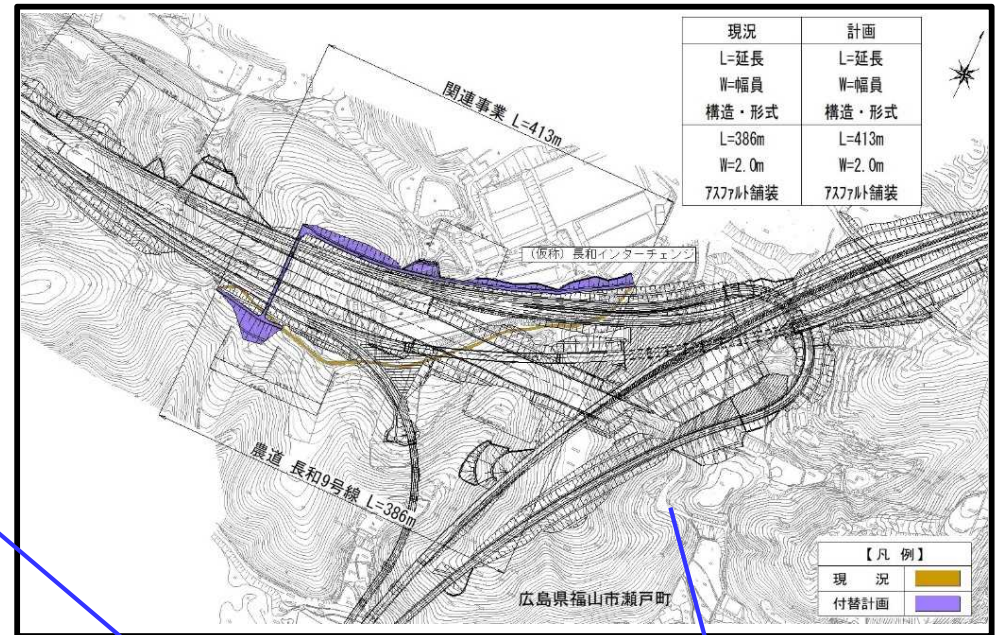
※赤坂IC(仮称)は全体計画区間及び起業地区間の範囲外。

関連事業の概要

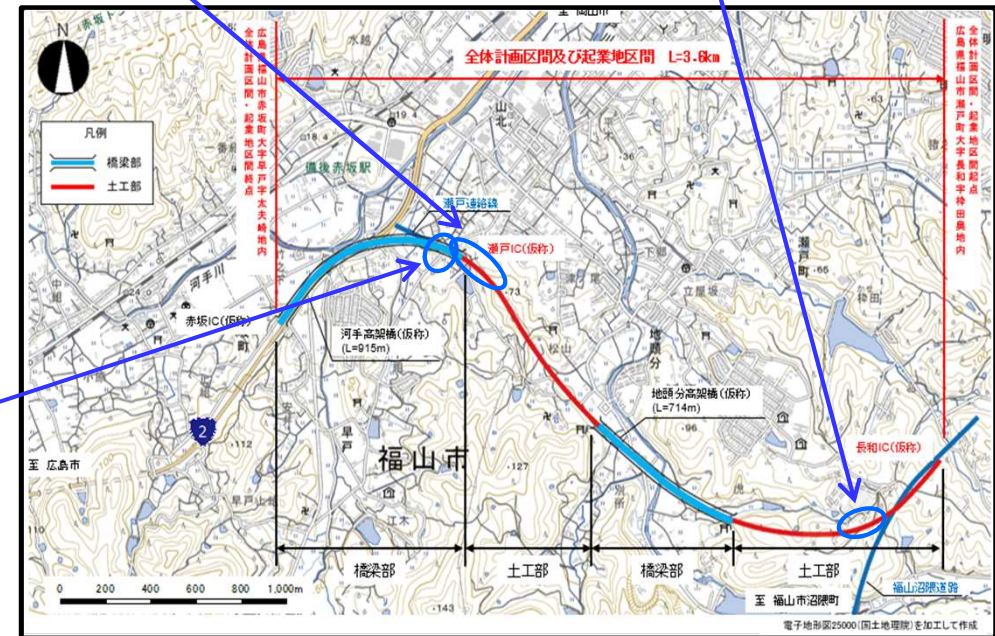
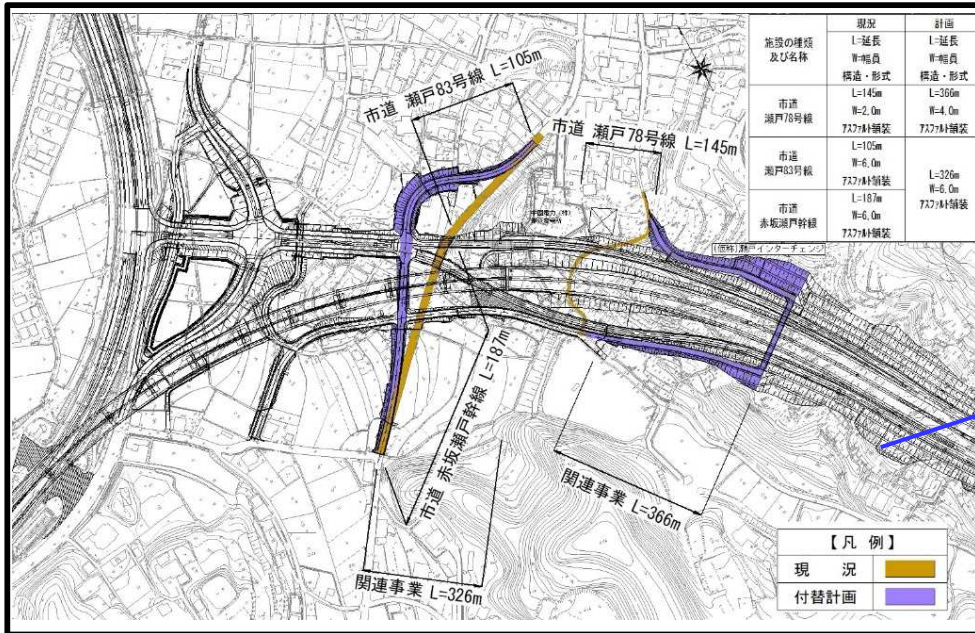
管理者: 中国電力株式会社
 施設の種類及び名称: 送電線 瀬戸支線



管理者: 福山市
 施設の種類及び名称: 農道 長和9号線



管理者: 福山市
 施設の種類及び名称: 市道瀬戸78号線 市道瀬戸83号線 市道赤坂瀬戸幹線



○福山道路に並行する一般国道2号は、朝夕を中心に混雑(速度低下)が発生している。

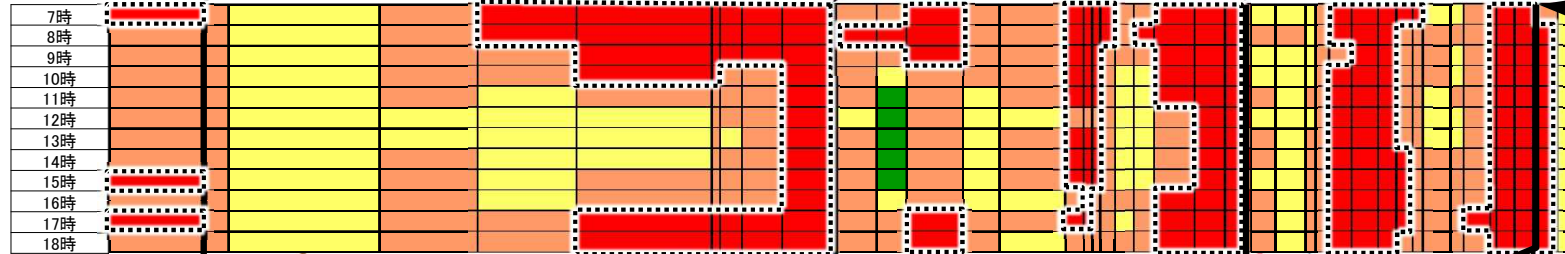
■ 旅行速度 (平日)

赤坂BP東口を先頭に速度低下

神島橋西詰を先頭に速度低下

福山郵便局前を先頭に速度低下

府中分かれを先頭に速度低下



東向き

【凡例】

旅行速度

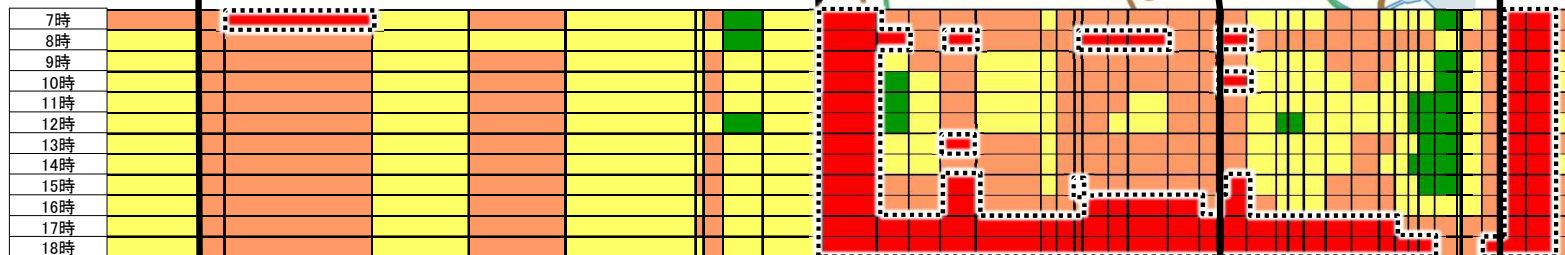
- 50km/h以上
- 40km/h~50km/h未満
- 30km/h~40km/h未満
- 20km/h~30km/h未満
- 20km/h未満
- データ未取得

主要渋滞箇所

- 箇所
- 区間



西向き

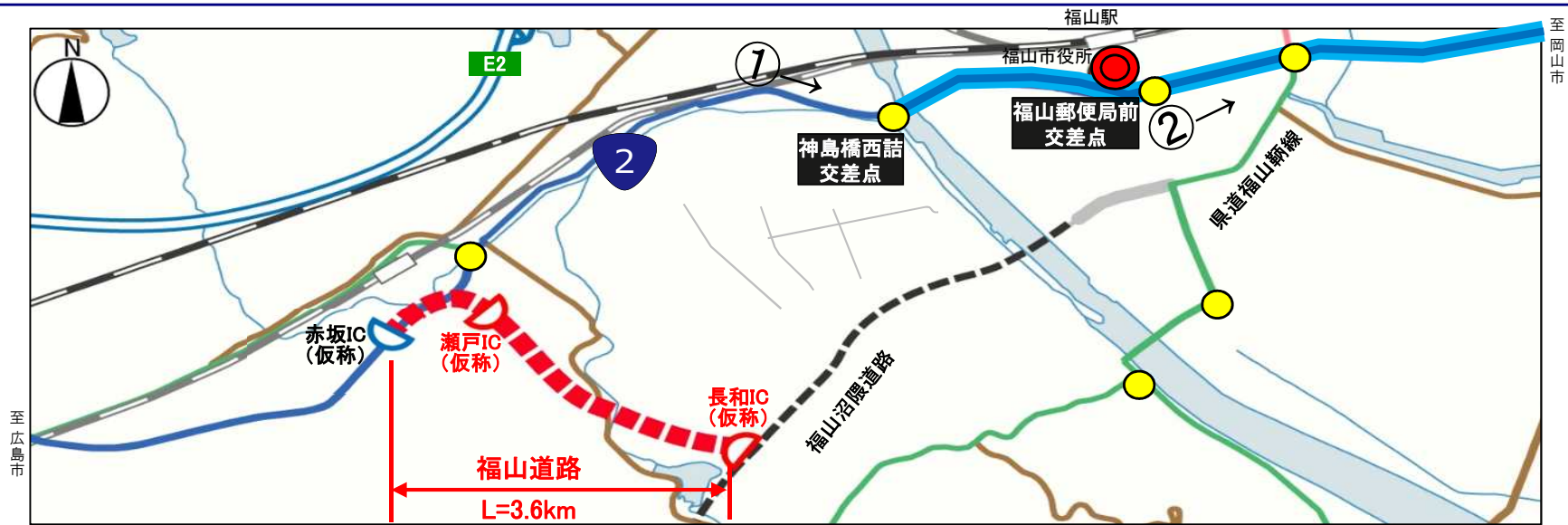


神島橋西詰を先頭に速度低下

福山郵便局前を先頭に速度低下

府中分かれを先頭に速度低下

○福山道路に並行する一般国道2号は、朝夕を中心に混雑が発生している。



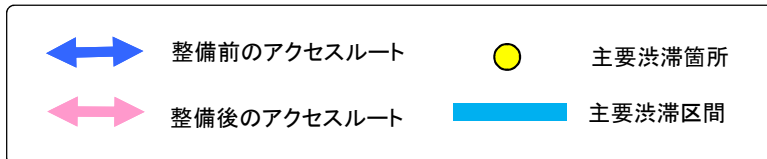
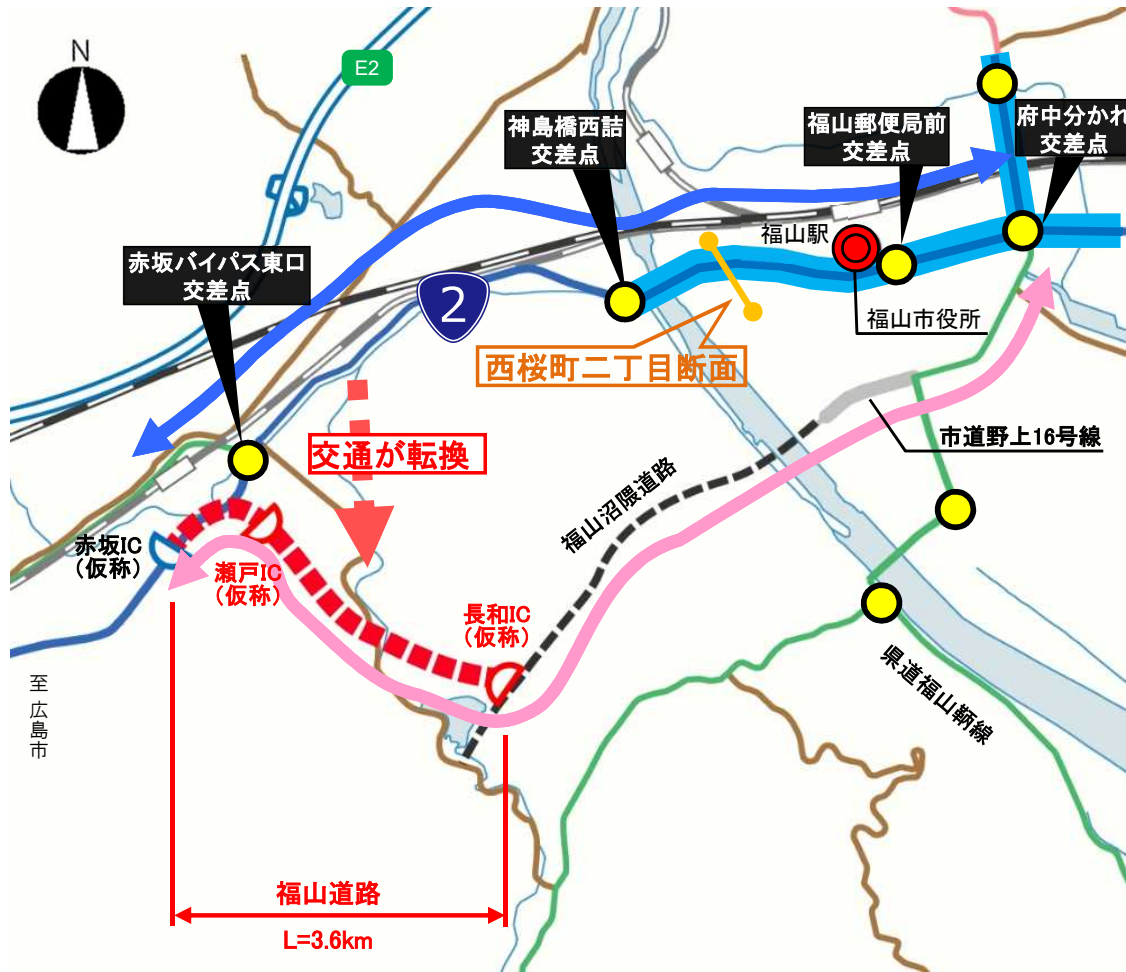
【写真】神島橋西詰交差点付近の混雑状況
(福山市佐波町から東方面を望む)
R2年8月21日 8時頃撮影



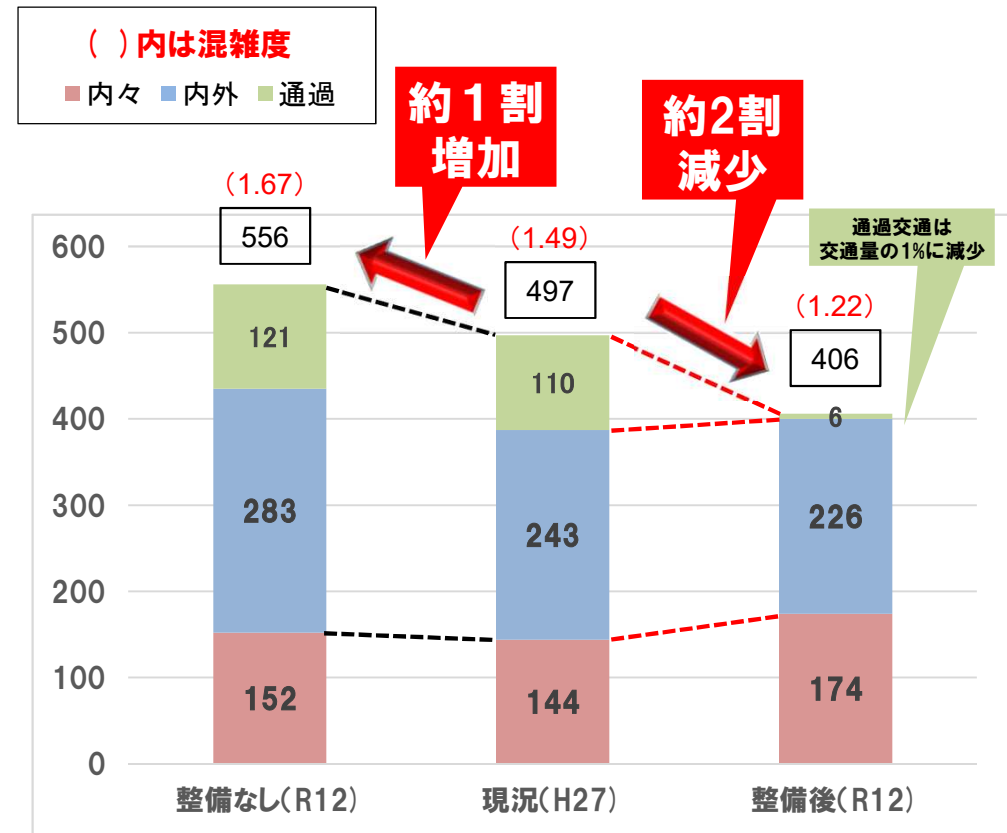
【写真】福山郵便局前交差点付近の混雑状況
(福山市霞町1から東方面を望む)
R2年8月21日 17時頃撮影

事業の効果(交通混雑の緩和)

○福山道路は、福山沼隈道路などに接続し、通過交通等を分担することから、一般国道2号の混雑の緩和が図られる。



【一般国道2号(西桜町二丁目)の交通量・混雑度の変化】



内々：起終点が福山市を跨がない交通
 内外：起終点のいずれかが福山市を跨ぐ交通
 通過：福山市を通過する交通

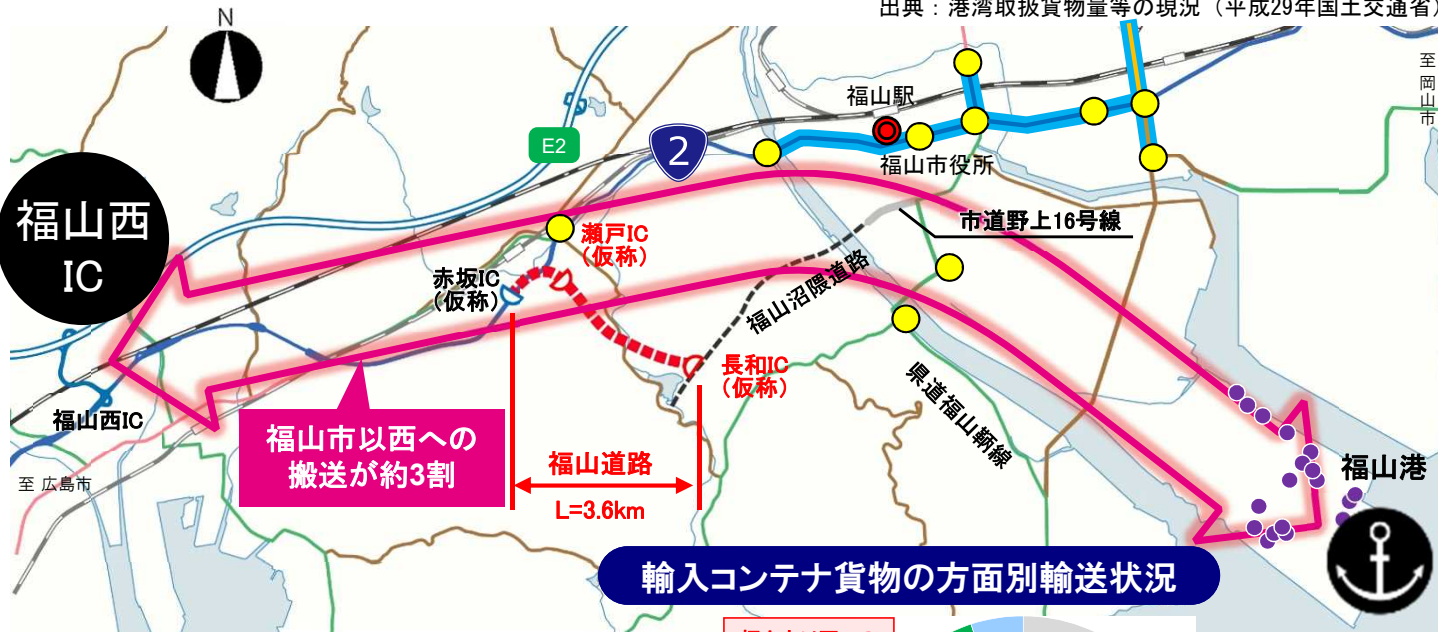
事業の効果 (物流活動の効率化)

- 福山港は中国地方第3位の取扱貨物量を誇る重要な物流拠点。
- 輸入コンテナ貨物の約3割が福山市以西へ輸送されている。
- 令和5年度の完成を目標にバース改良が進められており、更なる取扱量の増加が見込まれる。

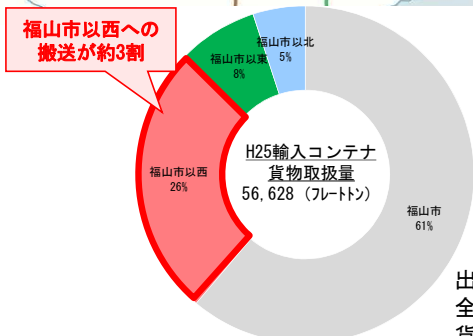
福山港の取扱貨物量

順位	港湾名	取扱貨物量(フレートトン)
1	水島	84,600,516
2	徳山下松	48,470,193
3	福山	43,979,098

出典：港湾取扱貨物量等の現況（平成29年国土交通省）



輸入コンテナ貨物の方面別輸送状況



- 凡例
- 主要渋滞箇所
 - 主要渋滞区間
 - 福山港周辺に立地する物流事業者



写真：広島県港湾振興協会・広島県東部港湾振興協会HPより

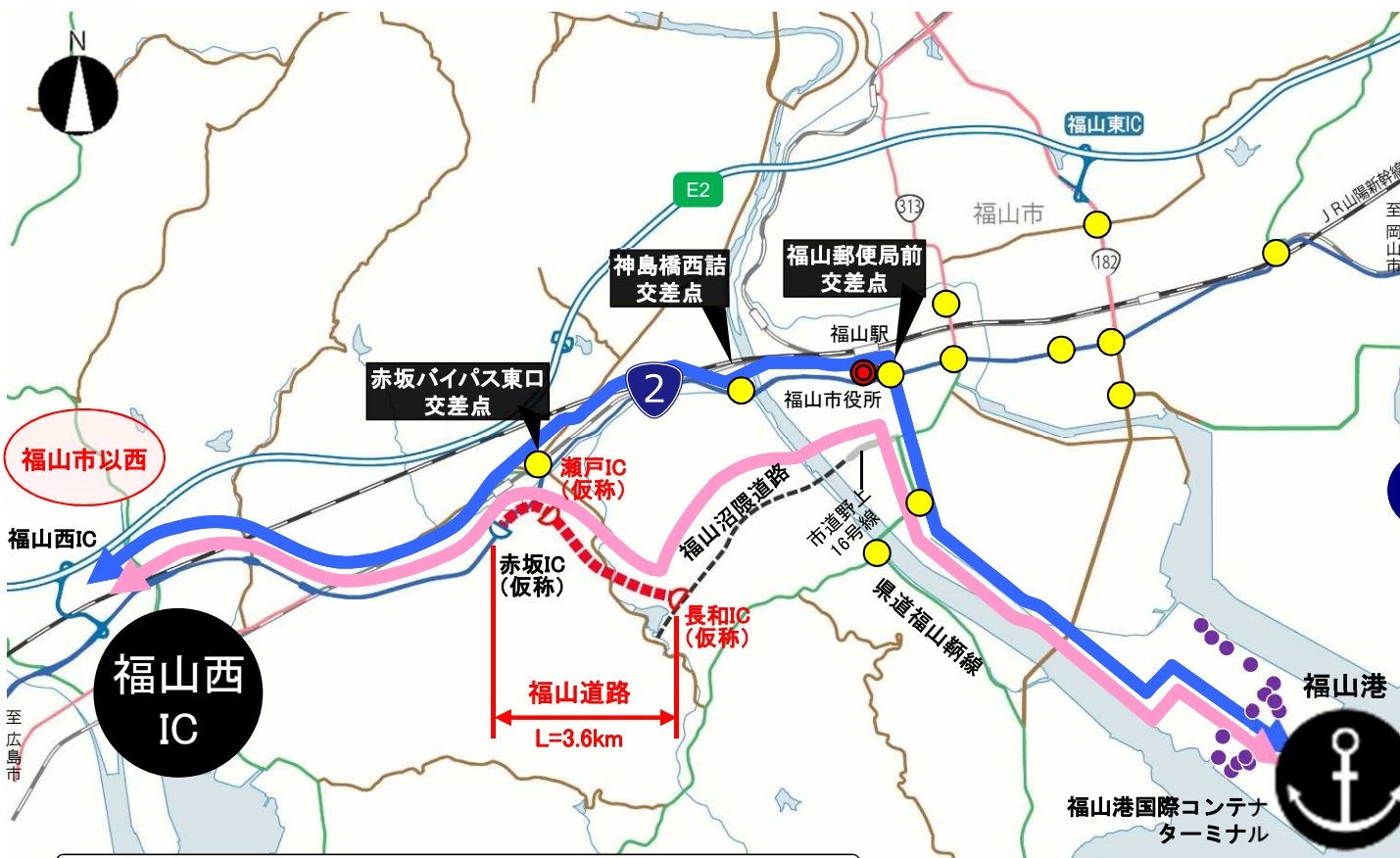
- 福山港は、ばら積み貨物の拠点として国が集中整備する「国際バルク戦略港湾」にH23に選定。
- 現在、大型船に対応できるように2箇所のバース改良に着手。
- R2年度、R5年度の完成を目指しており、今後取扱量の増加が見込まれる。

出典：H25年度
全国輸出入コンテナ
貨物流動調査結果

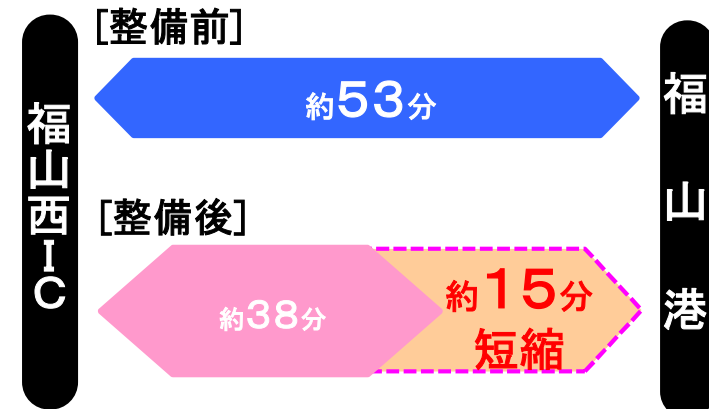
事業の効果 (物流活動の効率化)

- 整備ルートの利用により、福山港から福山西ICまでの所要時間が約15分短縮見込み。
- 所要時間短縮による物流活動の効率化が期待。

福山港からのコンテナ輸送ルート[福山市以西]



所要時間短縮・定時性確保 (物流活動の効率化)



ルート

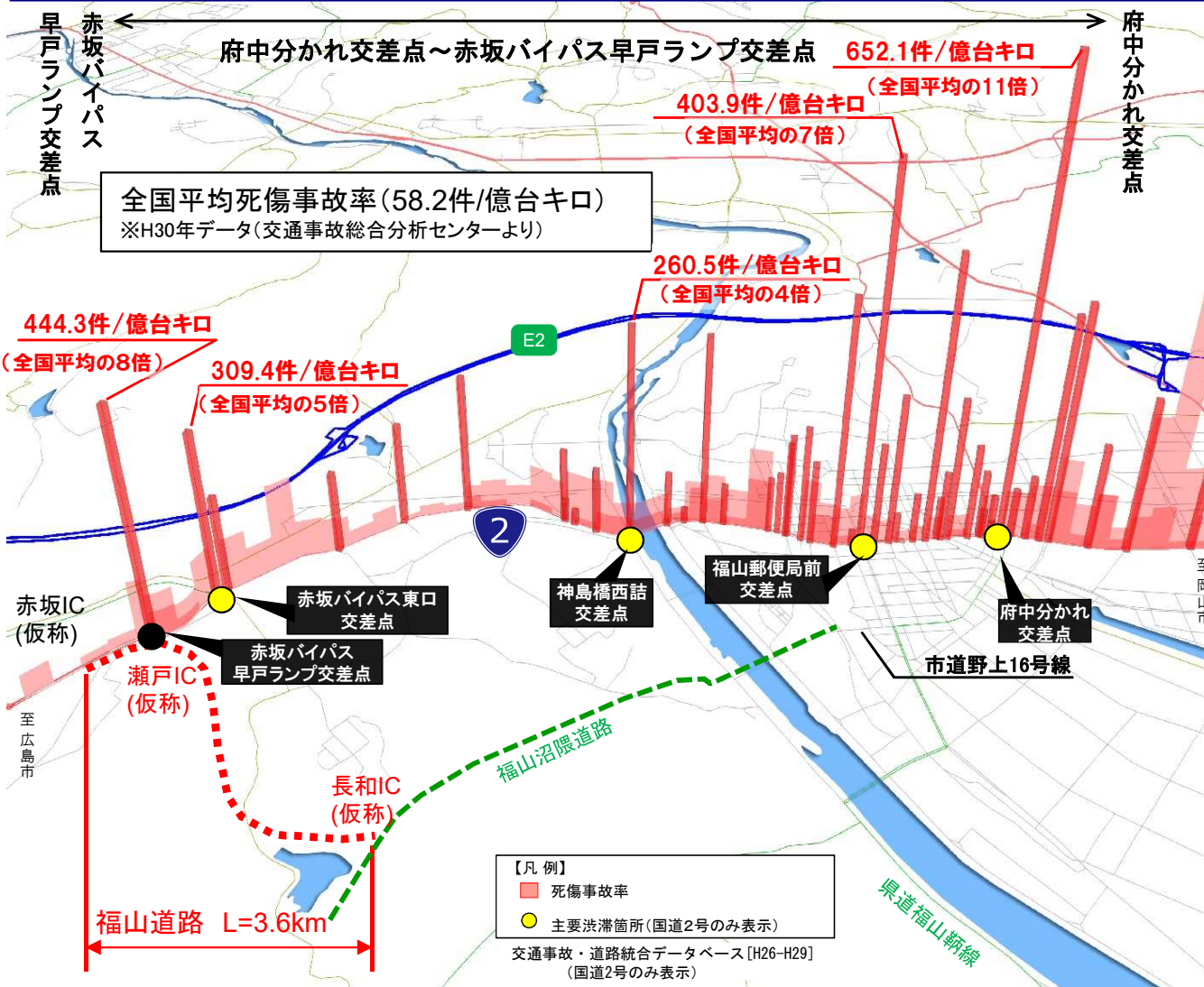
整備前	整備後
福山港～	福山港～
福山鞆線～	福山鞆線～
一般国道2号～ (福山郵便局前交差点～)	市道野上16号線～
福山西IC	福山沼隈道路～
	福山道路～
	一般国道2号(赤坂IC～)～
	福山西IC

- ←→ 整備前の輸送ルート
- ←→ 整備後の輸送ルート
- 主要渋滞箇所
- 福山港周辺に立地する物流事業者

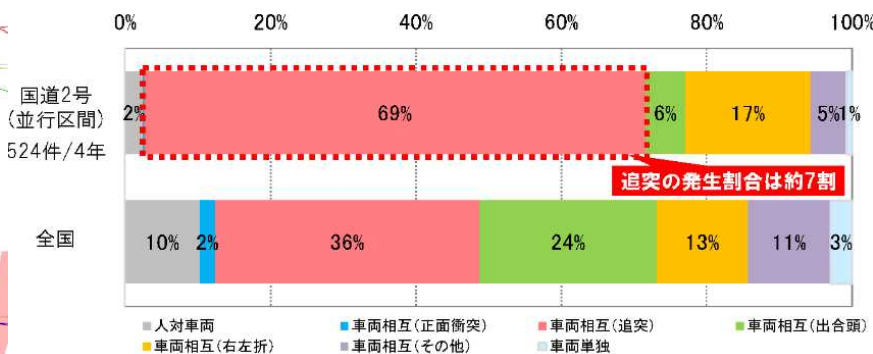
※「整備前」における所要時間は、平成27年度全国道路・街路交通情勢調査旅行速度より算出。
 ※「整備後」における所要時間は、平成27年度全国道路・街路交通情勢調査旅行速度及び計画されている規制速度より算出。

事業の効果(交通事故の低減、安全性の向上)

- 府中分かれ交差点をはじめとして死傷事故率が全国平均より高い箇所が連続して存在。
- 混雑に起因すると想定される追突事故の割合が約7割と高い状況。
- 福山道路の整備により通過交通等が転換し、一般国道2号の混雑が緩和することで、交通安全性の向上が期待される。



並行現道区間(一般国道2号)の類型別死傷事故の状況



追突事故発生状況(神島橋西詰付近)

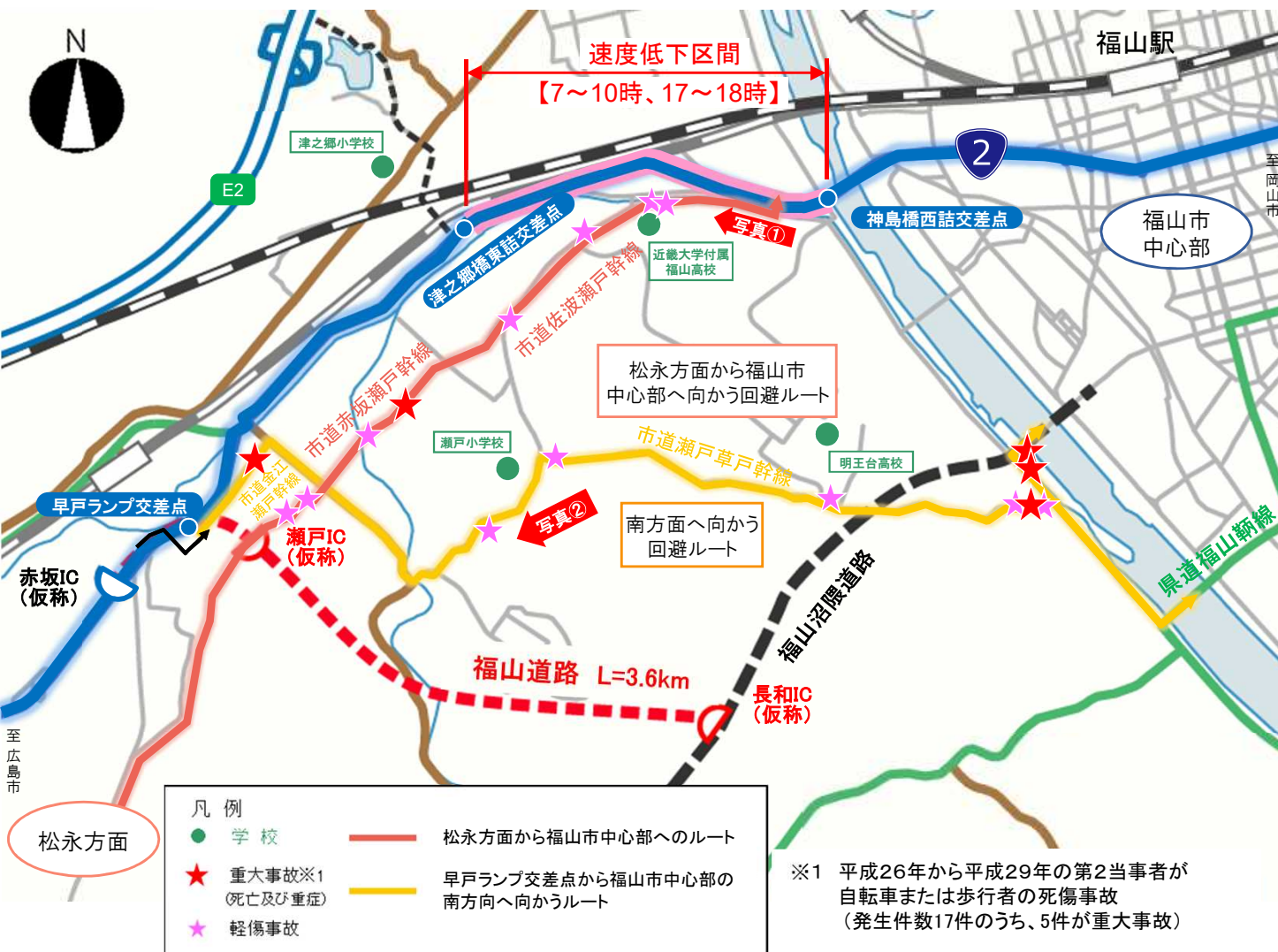


事業の効果(交通事故の低減、安全性の向上)

- 一般国道2号の混雑(速度低下)を回避するため、周辺の生活道路へ交通が流入。
- 周辺の生活道路では、自動車と歩行者・自転車による重大事故等が発生。
- 一般国道2号の混雑緩和により、生活道路への流入交通が減少し、安全性の向上に期待。

一般国道2号の混雑箇所を回避する車両の利用が想定される経路

生活道路の状況



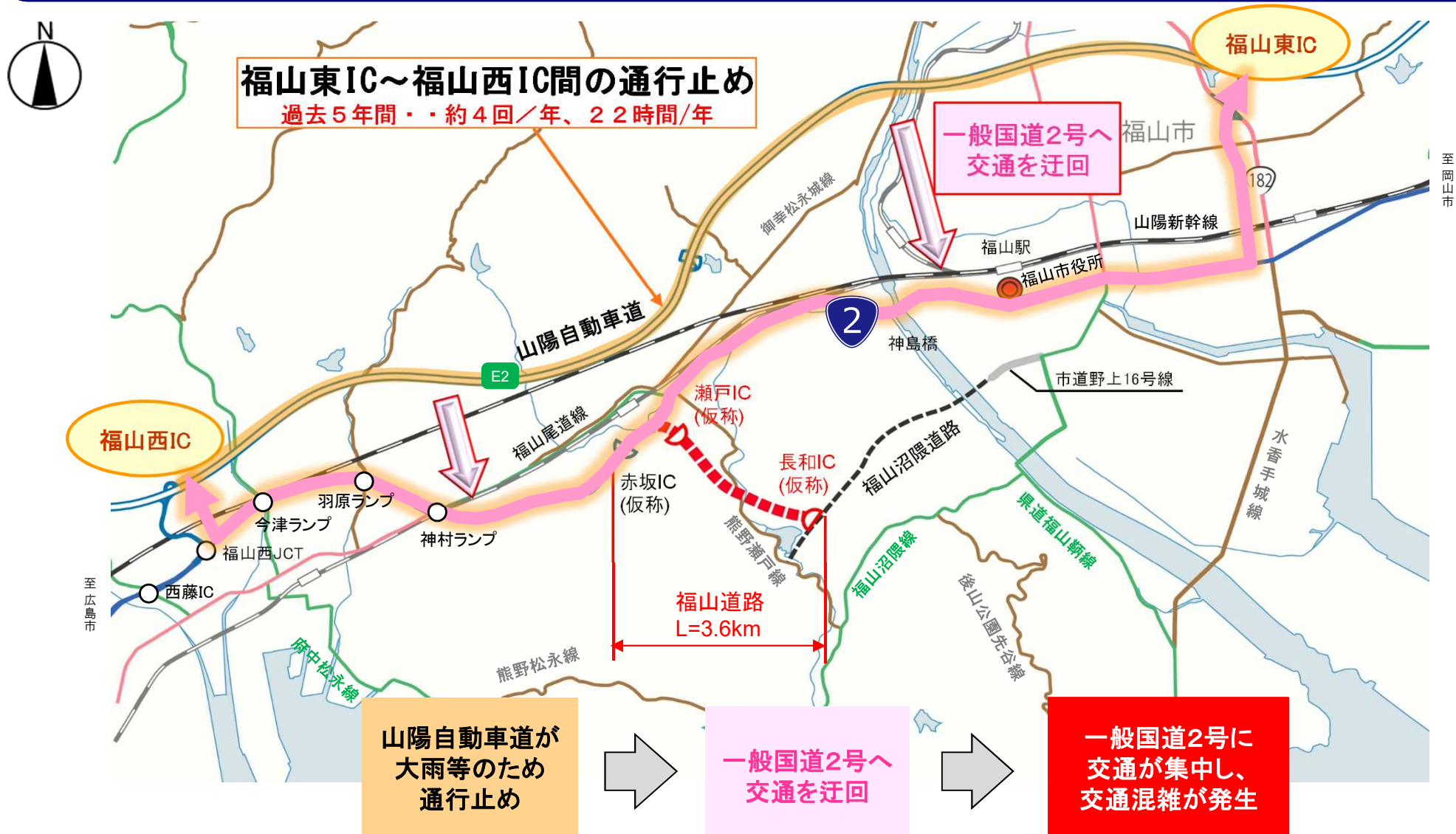
【写真①】近畿大学附属福山高校付近の市道の状況
R1年11月28日 8時頃



【写真②】瀬戸小学校付近の市道の状況
R2年6月22日 8時頃

○山陽自動車道で事故・災害が発生した場合、通過交通は迂回路として一般国道2号を利用
(山陽自動車道(福山東IC～福山西IC) 通行止め実績は過去5年間で平均約4回/年、約22時間/年)

山陽自動車道(福山東IC～福山西IC)通行止めによる一般国道2号への影響



- 平成30年7月豪雨では福山東IC～福山西ICの前後区間を含む区間が約51時間通行止め。
- 福山道路の整備により、山陽自動車道や一般国道2号が通行止めの場合も、緊急輸送道路ネットワークの信頼性の向上が期待。

山陽自動車道通行止めによる一般国道2号への影響<平成30年7月の大雨の状況>

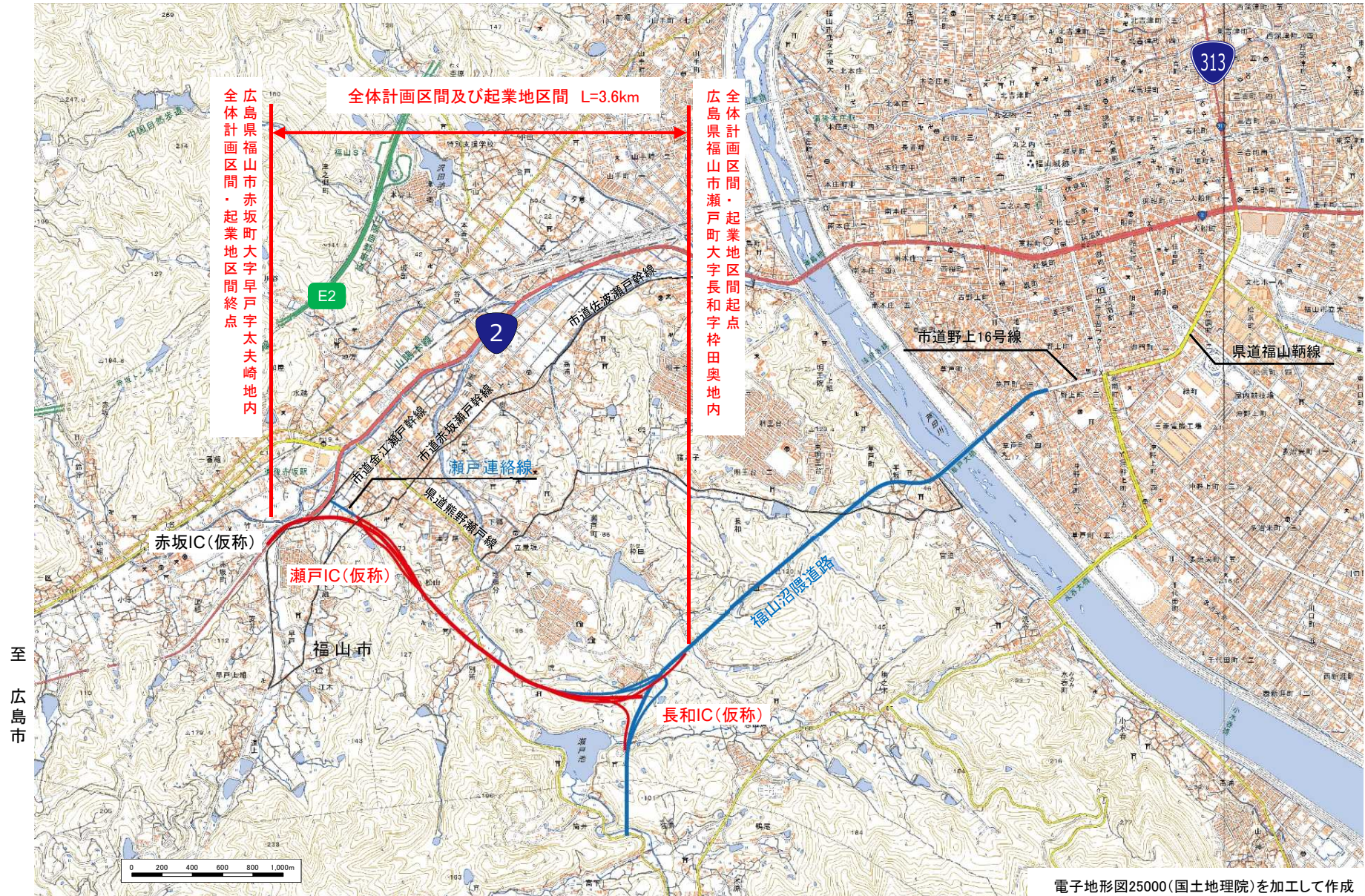


国道2号232k105R 神島橋東
広島県福山市南本庄地先

H30年7月6日 7時頃

写真: 神島橋東詰より東方面を望む

○本事業は、都市計画決定された都市計画と、のり面等を除き、基本的内容について整合している。

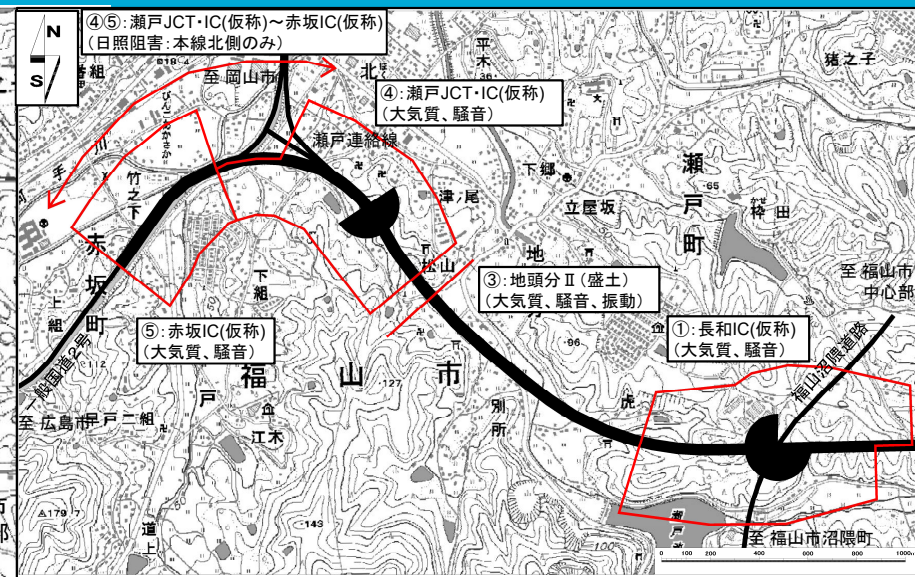
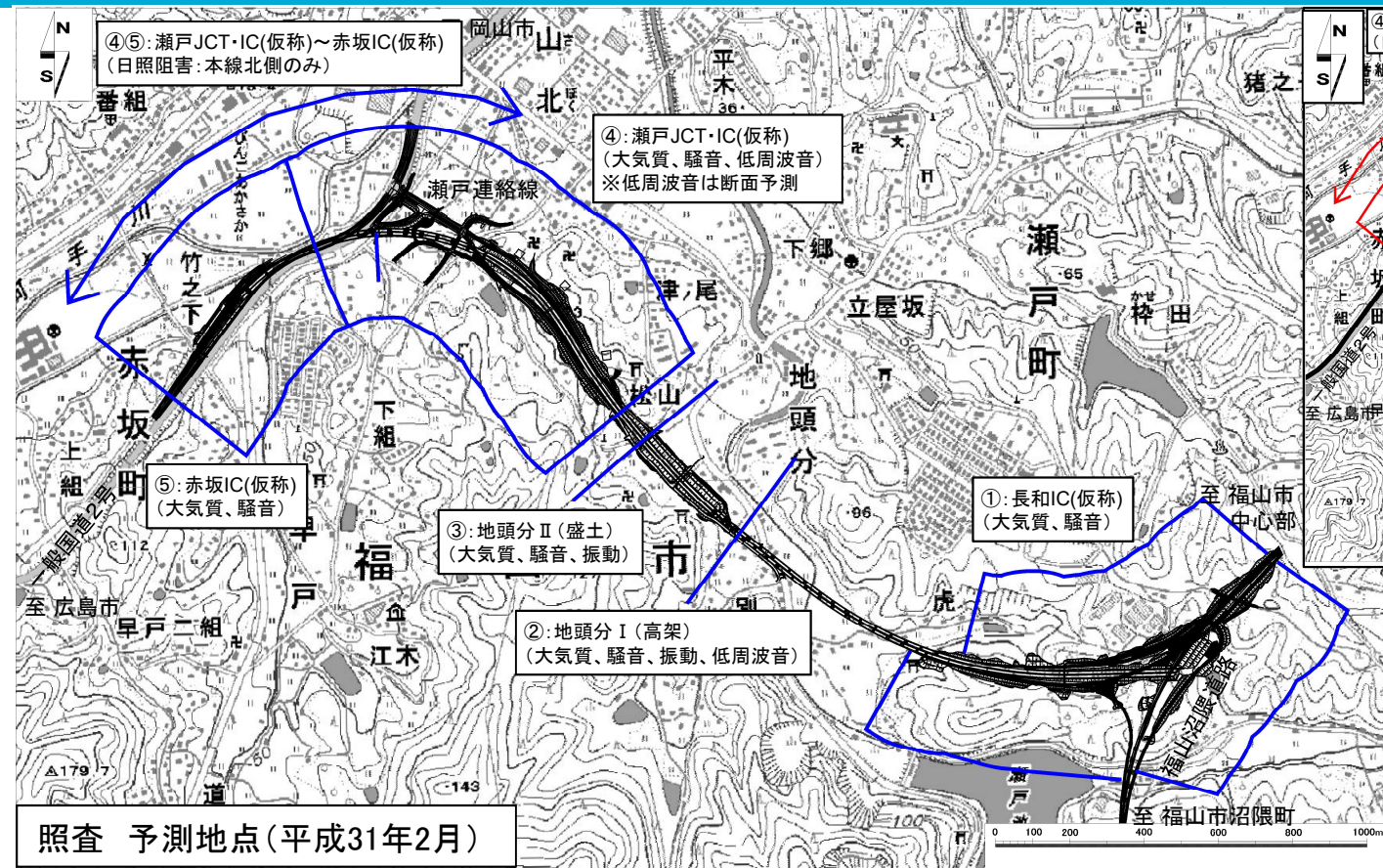


至
広島市

至
岡山市

	事業の所在地	実施者	実施時期	予測年次	計画交通量 (本線)	設計 速度	予測 地点
環境 影響 評価	福山市大門町 ～ 福山市赤坂町	広島県 知事	平成12年12月	平成22年	24,600～42,900台/日 【29,400～42,900台/日】 ※【】は照査と同区間	80 km/h	16地点 【4地点】 ※【】は照査 と同区間
照査	福山市瀬戸町 ～ 福山市赤坂町	起業者	平成31年2月	令和12年	33,600～47,700台/日	80 km/h	5地点

- ※ 広島県知事は、本件事業の都市計画手続きにおいて、平成12年に環境影響評価を実施。
- ※ 起業者は、計画交通量の見直しや、環境影響評価以降に新たに得られた知見を踏まえ、任意で環境影響評価の照査(フォローアップ)を平成31年に実施。
- ※ 平成12年の環境影響評価のうち、下段は照査と同区間の計画交通量、予測地点を示す。
- ※ 照査は環境影響評価のうち、福山市瀬戸町～福山市赤坂町のみ実施。
- ※ 予測地点数は、生活環境項目の地点数を示す。



予測地点位置図

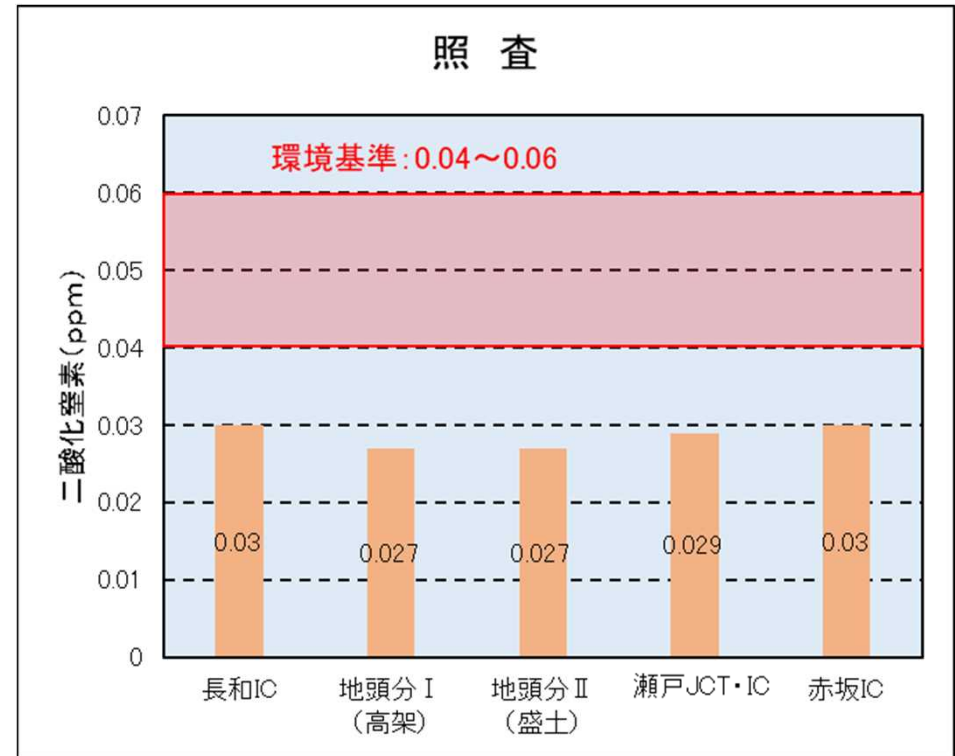
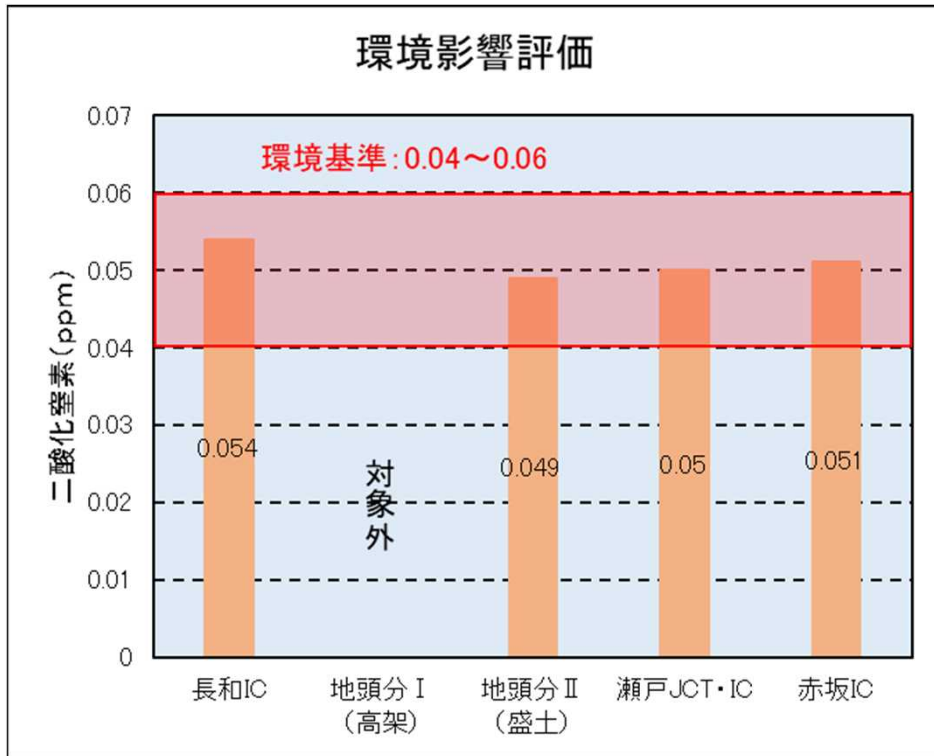
予測地点		環境影響評価(平成12年12月)						照査(平成31年2月)				
		大気質		騒音	振動	日照阻害	低周波音	大気質		騒音	振動	日照阻害
記号	地区名	NO ₂	SPM					NO ₂	SPM			
①	長和IC(仮称)	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-
②	地頭分Ⅰ(高架)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
③	地頭分Ⅱ(盛土)	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-
④	瀬戸JCT・IC(仮称)	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	○
⑤	赤坂IC(仮称)	○	○	○	-	○	○	○	○	○	-	-

※ 平成12年環境影響評価時の設計では、地頭分地区は全て盛土構造であったため、②地頭分Ⅰ(高架)は対象外としていた。

※ 瀬戸JCT・IC(仮称)と赤坂IC(仮称)の日照阻害は、交通量の変化する地区毎ではなく、道路構造(高架)が連続する区間で合わせて実施した。

結果概要(大気質/二酸化窒素(NO₂)) ⇒ 環境基準を満足する

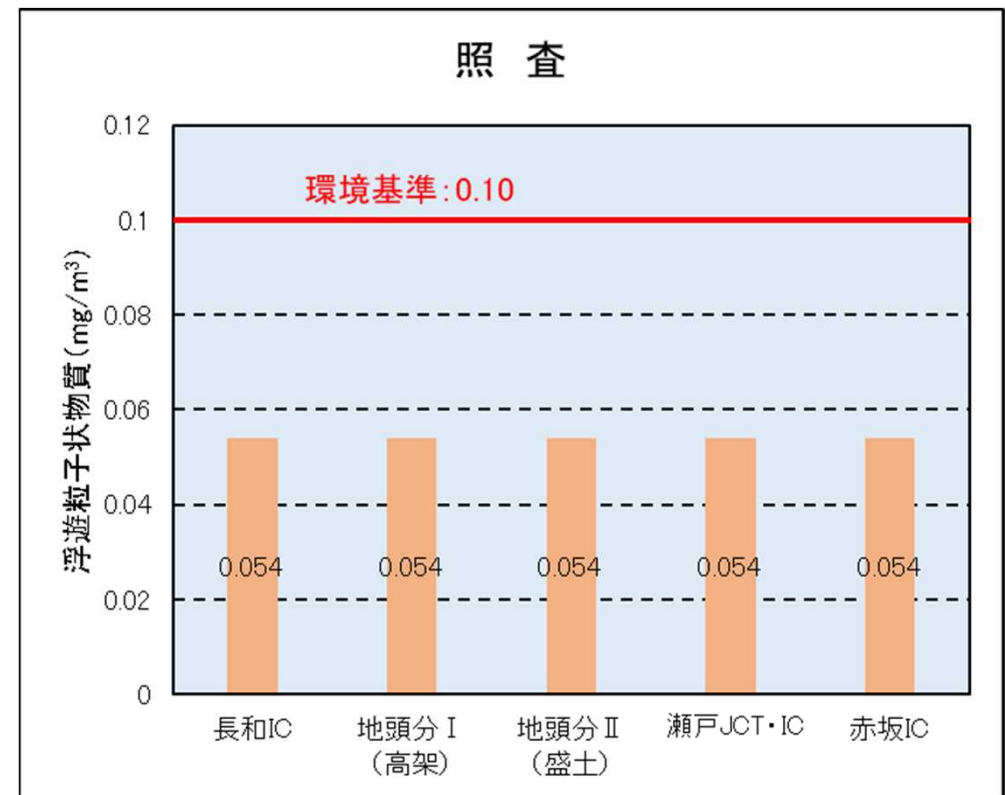
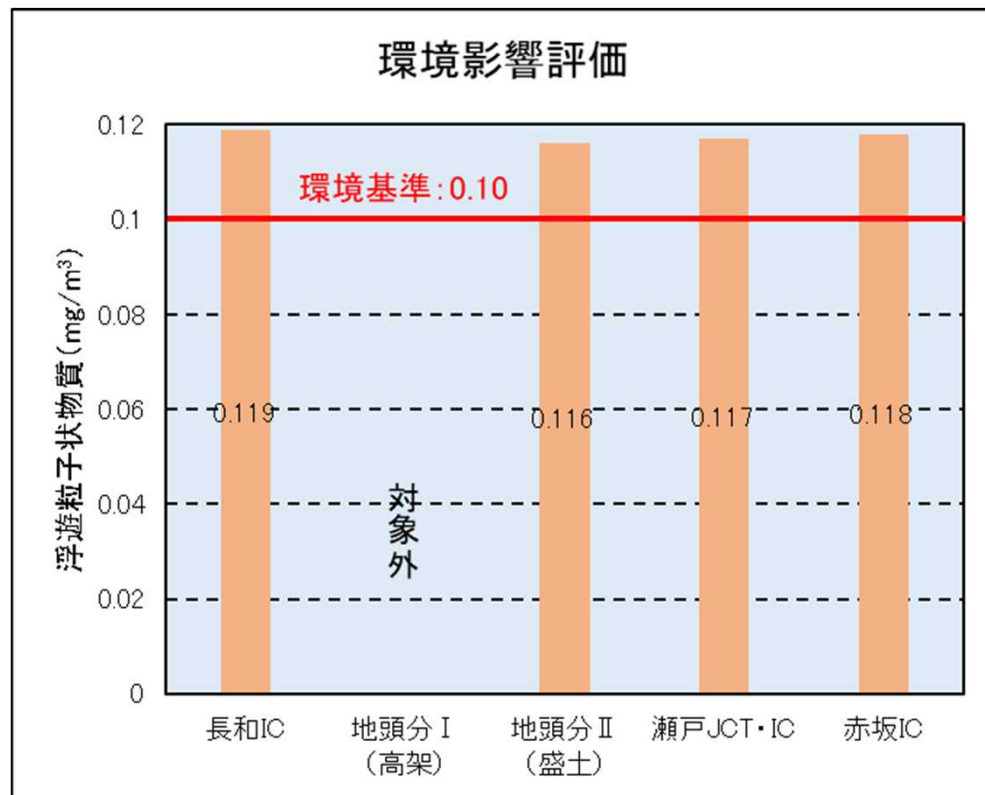
区分	実施時期	評価項目	環境基準	結果 (地区最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値0.04 ~0.06 ppmのゾーン内又 はそれ以下	0.049 ~ 0.054ppm	○
照査	平成31年2月			0.027 ~ 0.030ppm	○



※ グラフの数値は日平均値の年間98%値を示す。
 ※ IC名は全て仮称である。

結果概要(大気質/浮遊粒子状物質(SPM)) ⇒ **環境影響評価時は環境基準を超過していたが、照査では環境基準を満足する。**

区分	実施時期	評価項目	環境基準	結果 (地区最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値 0.10mg/m ³ 以下	0.116 ~ 0.119 mg/m ³	超過
照査	平成31年2月			0.054 mg/m ³	○

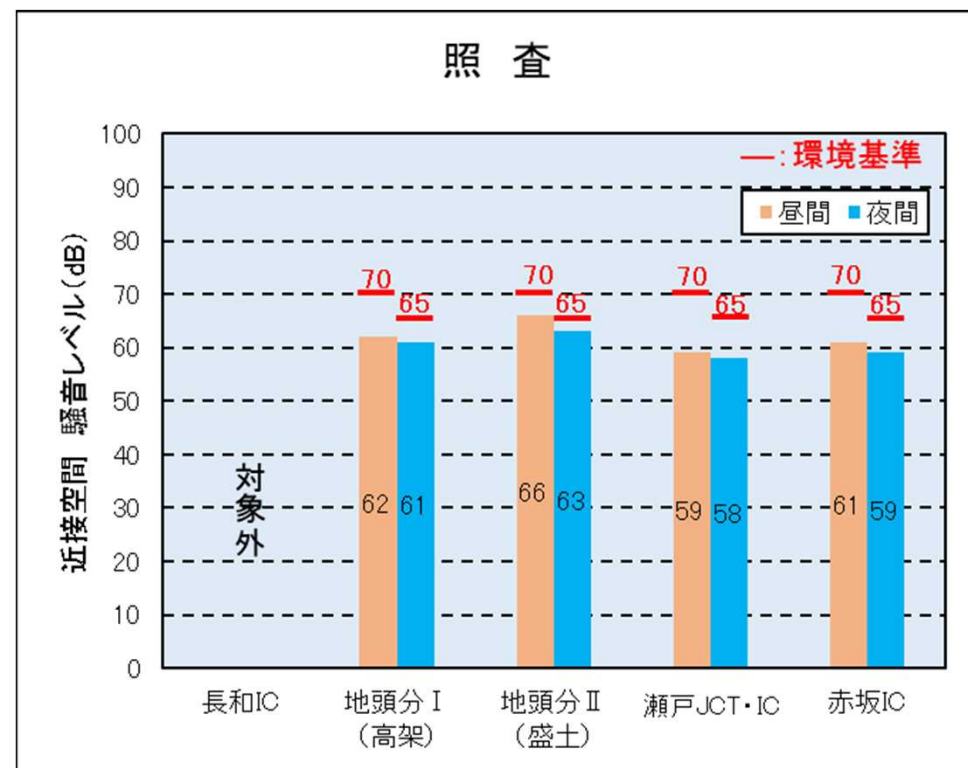
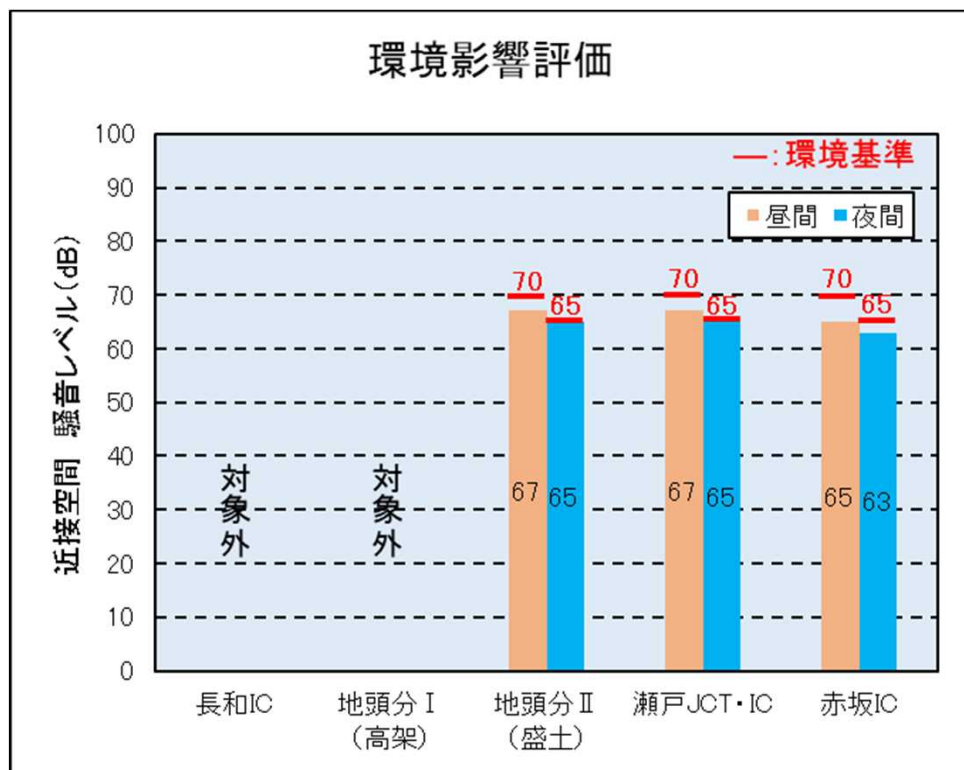


※ 浮遊粒子状物質(SPM)は、大気中に浮遊している粒子状物質で、粒径10マイクロメートル以下のものをいう。

※ グラフの数値は、日平均値の年間2%除外値を示す。 ※ IC名は全て仮称である。

結果概要(騒音/近接空間) ⇒ 環境基準を満足する

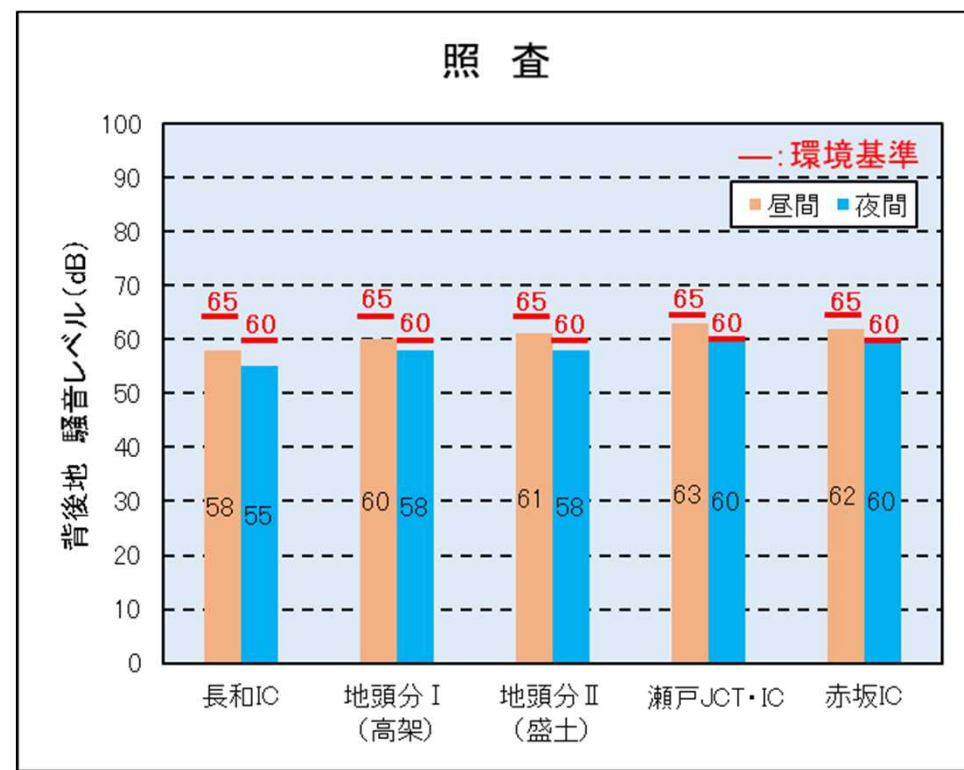
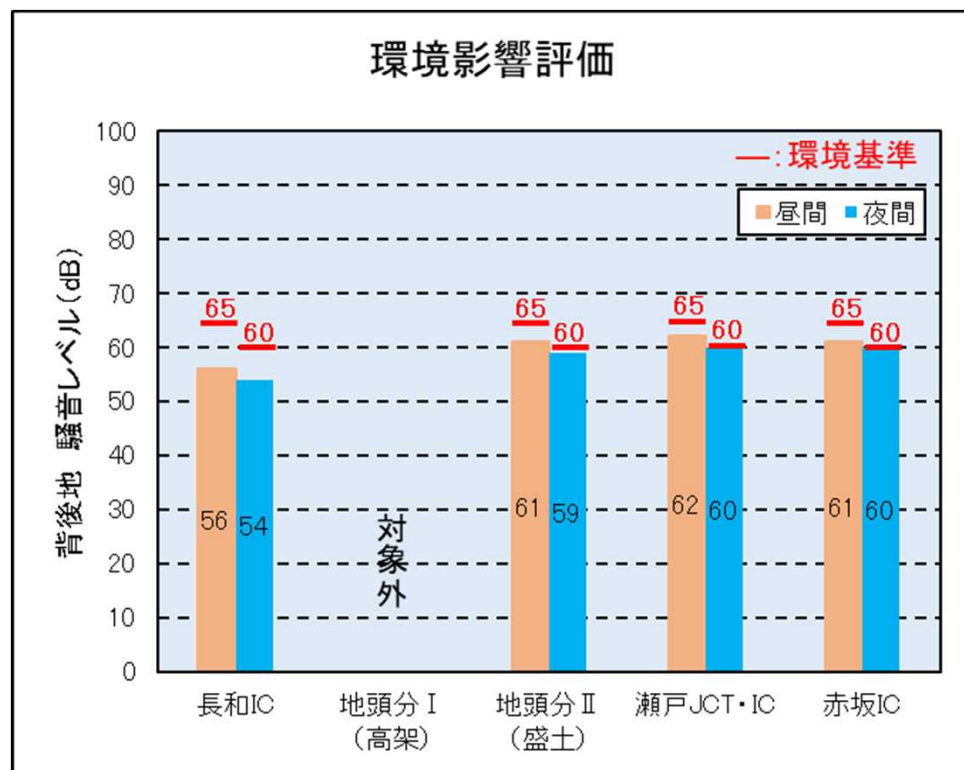
区分	実施時期	評価項目	地域区分	環境基準(近接空間)	昼間予測結果(最大値)	環境基準(近接空間)	夜間予測結果(最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	騒音	近接空間	【昼間】 等価騒音 レベル 70dB以下	65~67dB	【夜間】 等価騒音 レベル 65dB以下	63~65dB	○
照査	平成31年2月				59~66dB		58~63dB	○



- ※ 環境基準を超える箇所は遮音壁を設置することで環境基準を満足する評価となっている。表中の数値は遮音壁設置後の数値を含む。
- ※ 各地区の数値は、各地区の住居における最大値を示す。近接空間は、道路端から20m以内の範囲を示す。
- ※ 表中の数値は2階住居の数値である。1階も同様に環境基準を満足している。
- ※ 長和IC地区は、近接空間(道路端から20m)の範囲に住居が立地していない。
- ※ IC名は全て仮称である。

結果概要(騒音／背後地) ⇒ 環境基準を満足する

区分	実施時期	評価項目	地域区分	環境基準(背後地)	昼間予測結果(最大値)	環境基準(背後地)	夜間予測結果(最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	騒音	背後地	【昼間】 等価騒音 レベル 65dB以下	56～62dB	【夜間】 等価騒音 レベル 60dB以下	54～60dB	○
照査	平成31年2月				58～63dB		55～60dB	○



※ 環境基準を超える箇所は遮音壁を設置することで環境基準を満足する評価となっている。表中の数値は遮音壁設置後の数値を含む。

※ 各地区の数値は、各地区の住居における最大値を示す。

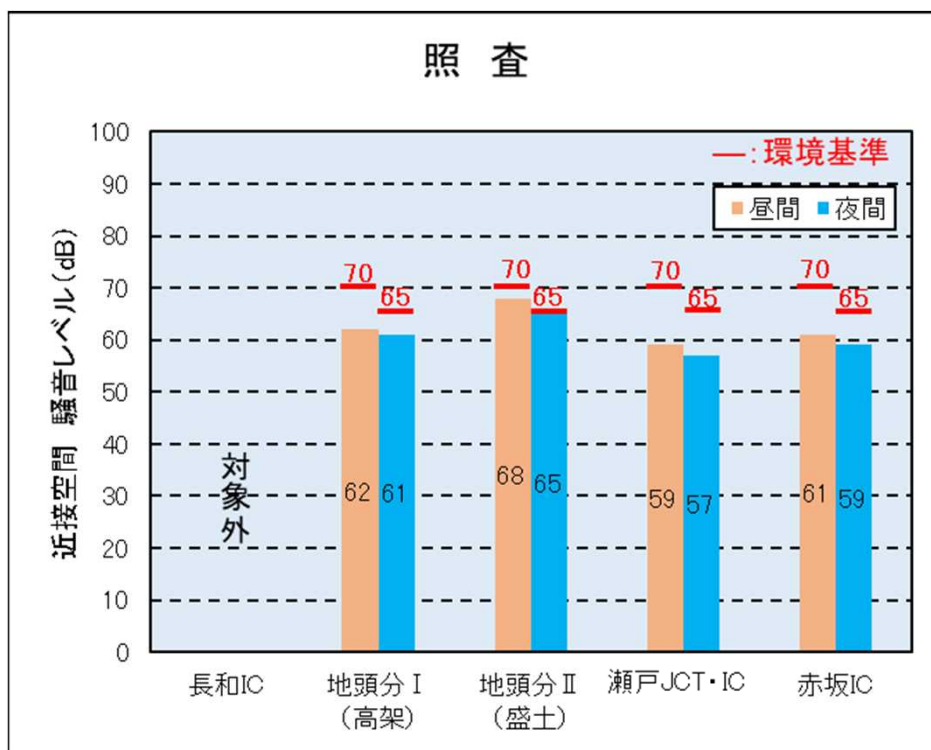
※ 背後地は、道路端より20m以遠の範囲を示す。

※ 表中の数値は2階住居の数値である。1階も同様に環境基準を満足している。

※ IC名は全て仮称である。

【補足】令和2年9月道路環境影響評価の技術手法「自動車の走行に係る騒音」(令和2年度版)改定により、検証実施結果概要(騒音／近接空間) ⇒ **環境基準を満足する**

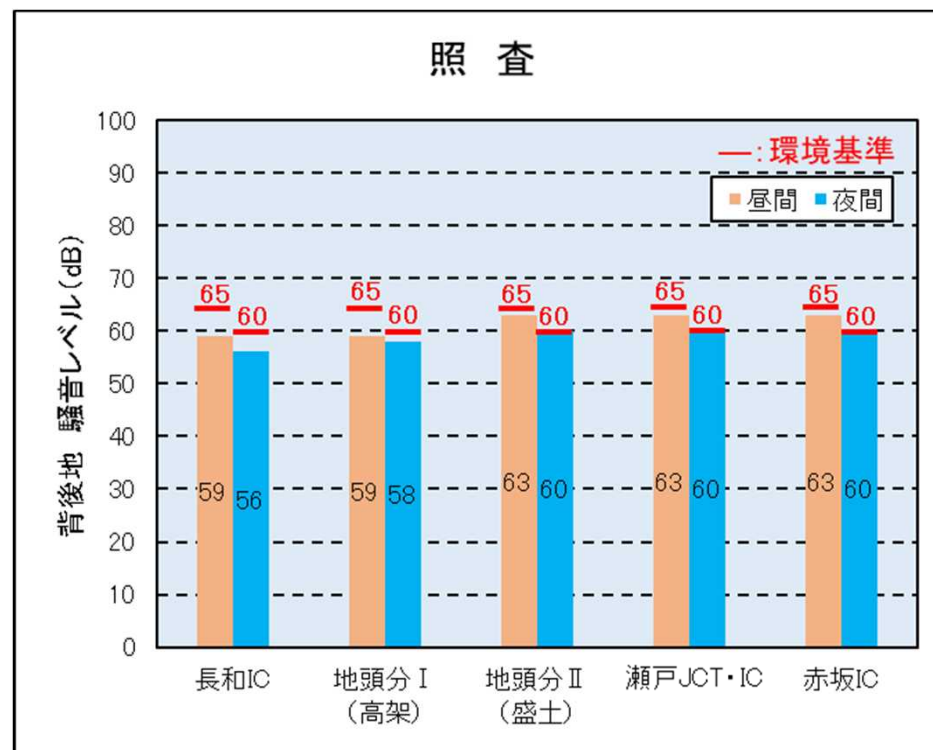
区分	実施時期	評価項目	地域区分	環境基準(近接空間)	昼間予測結果(区間最大値)	環境基準(近接空間)	夜間予測結果(区間最大値)	評価結果
照査	令和2年12月	騒音	近接空間	【昼間】 等価騒音 レベル 70dB以下	59～68dB	【夜間】 等価騒音 レベル 65dB以下	57～65dB	○



- ※ 環境基準を超える箇所は遮音壁を設置することで環境基準を満足する評価となっている。表中の数値は遮音壁設置後の数値を含む。
- ※ 各地区の数値は、各地区の住居における最大値を示す。近接空間は、道路端から20m以内の範囲を示す。
- ※ 表中の数値は2階住居の数値である。1階も同様に環境基準を満足している。
- ※ 長和IC地区は、近接空間(道路端から20m)の範囲に住居が立地していない。
- ※ IC名は全て仮称である。

【補足】令和2年9月道路環境影響評価の技術手法「自動車の走行に係る騒音」(令和2年度版)改定により、検証実施結果概要(騒音／背後地) ⇒ **環境基準を満足する**

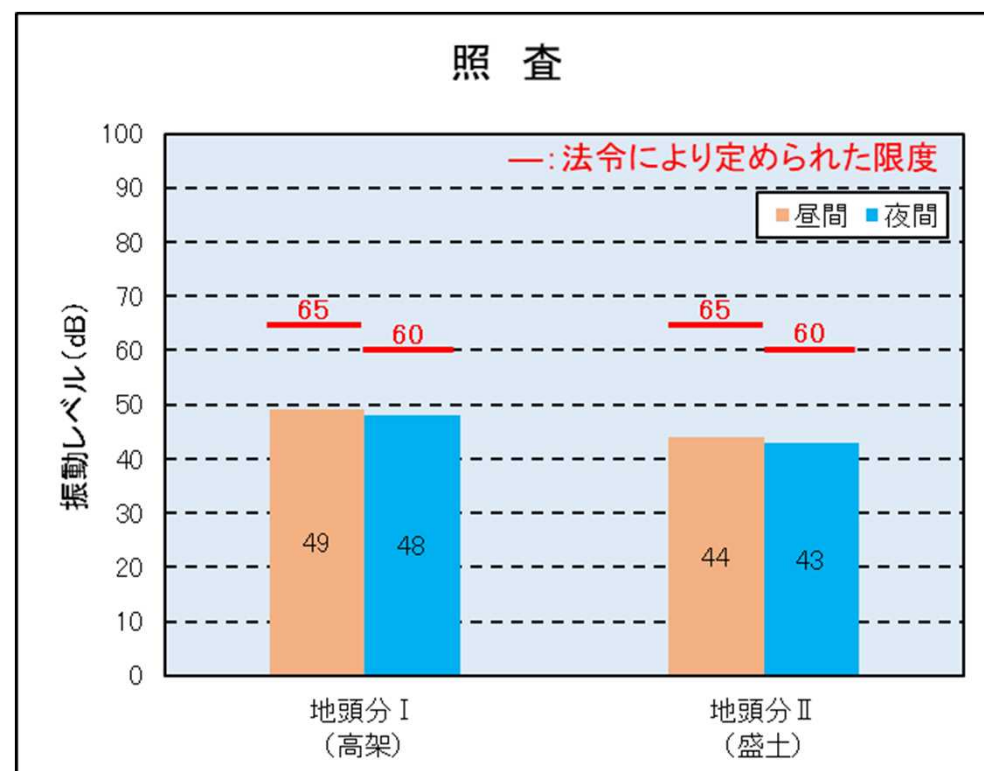
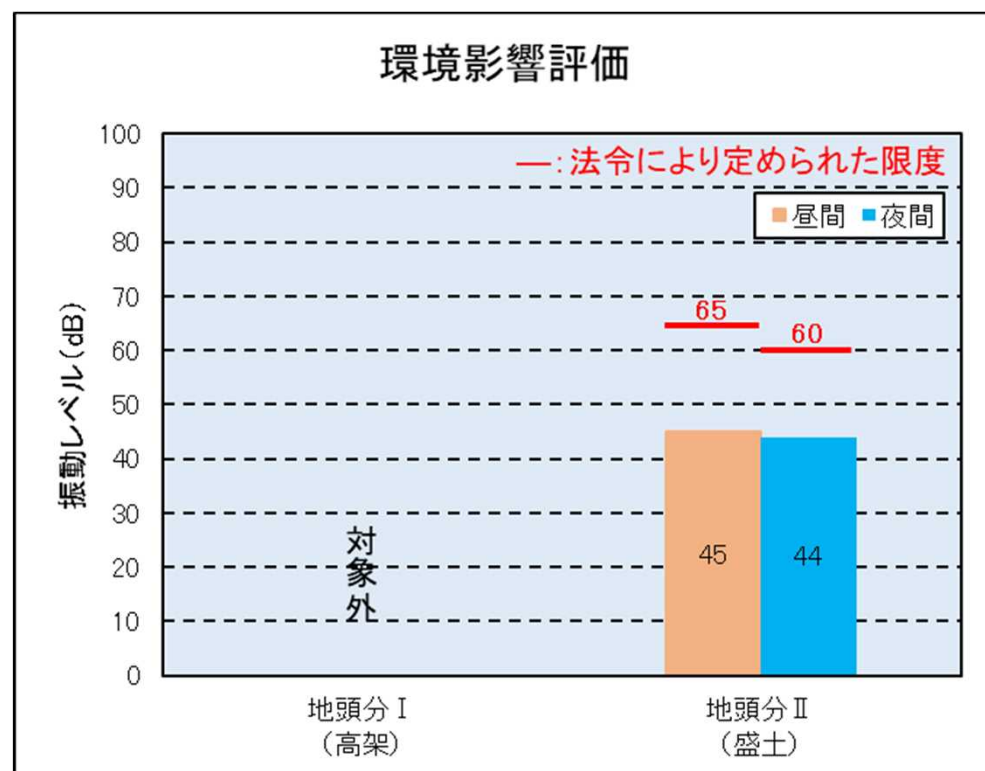
区分	実施時期	評価項目	地域区分	環境基準(背後地)	昼間予測結果(区間最大値)	環境基準(背後地)	夜間予測結果(区間最大値)	評価結果
照査	令和2年12月	騒音	背後地	【昼間】 等価騒音 レベル 65dB以下	59~63dB	【夜間】 等価騒音 レベル 60dB以下	56~60dB	○



- ※ 環境基準を超える箇所は遮音壁を設置することで環境基準を満足する評価となっている。表中の数値は遮音壁設置後の数値を含む。
- ※ 各地区の数値は、各地区の住居における最大値を示す。
- ※ 背後地は、道路端より20m以遠の範囲を示す。
- ※ 表中の数値は2階住居の数値である。1階も同様に環境基準を満足している。
- ※ IC名は全て仮称である。

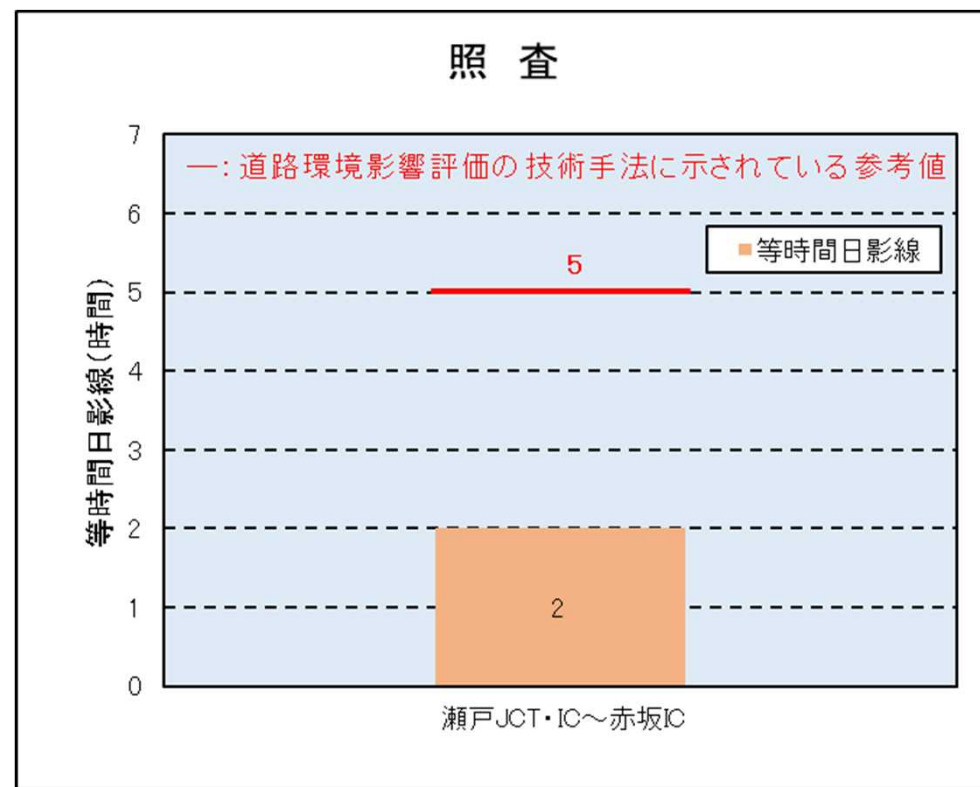
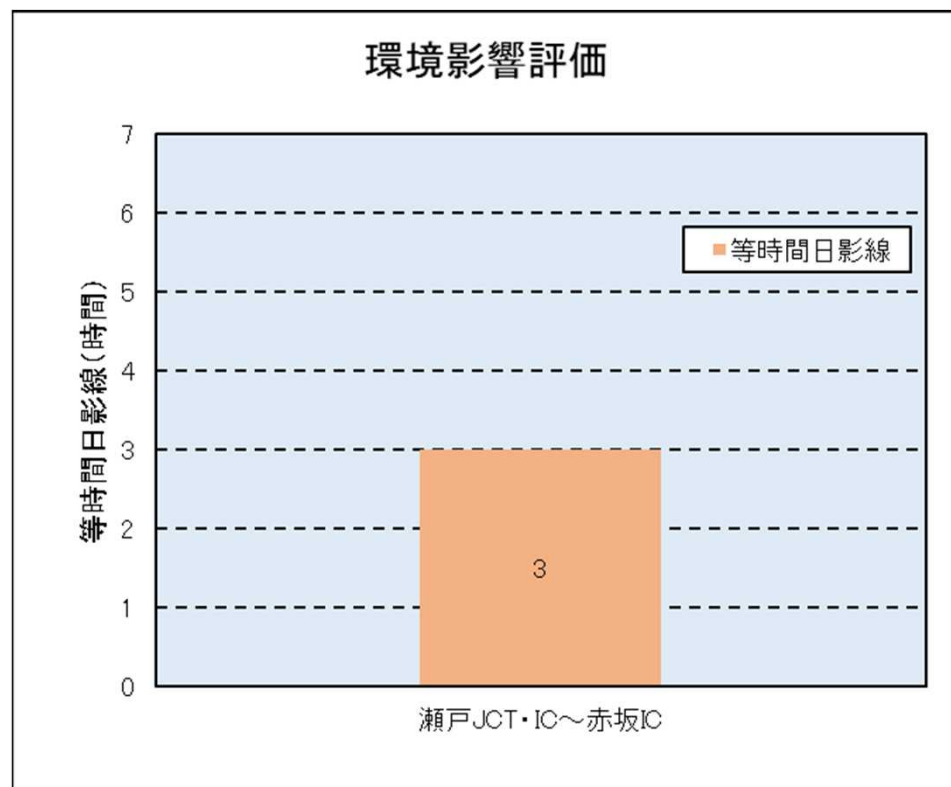
結果概要(振動) ⇒ 法令により定められた限度を満足する

区分	実施時期	評価項目	地域区分	法令により定められた限度	昼間予測結果(区間最大値)	法令により定められた限度	夜間予測結果(区間最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	振動	第1種区域	【昼間】 等価騒音 レベル 65dB以下	45	【夜間】 等価騒音 レベル 60dB以下	44	○
照査	平成31年2月				44~49		43~48	○



結果概要(日照阻害) ⇒ 道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値を満足する

区分	実施時期	評価項目	用途区分	道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値	予測結果(最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	日照阻害	未指定地域	評価基準なし	3時間以内	—
照査	平成31年2月			5時間以内	2時間以内	○



※ 日照阻害は、国、県、関係地方公共団体等において、保全に関する基準が示されていないため、道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値を用いている。なお、環境影響評価作成時(平成12年)は、道路環境影響評価の技術手法が発行されていないため、評価基準が示されていない。

※ IC名は全て仮称である。

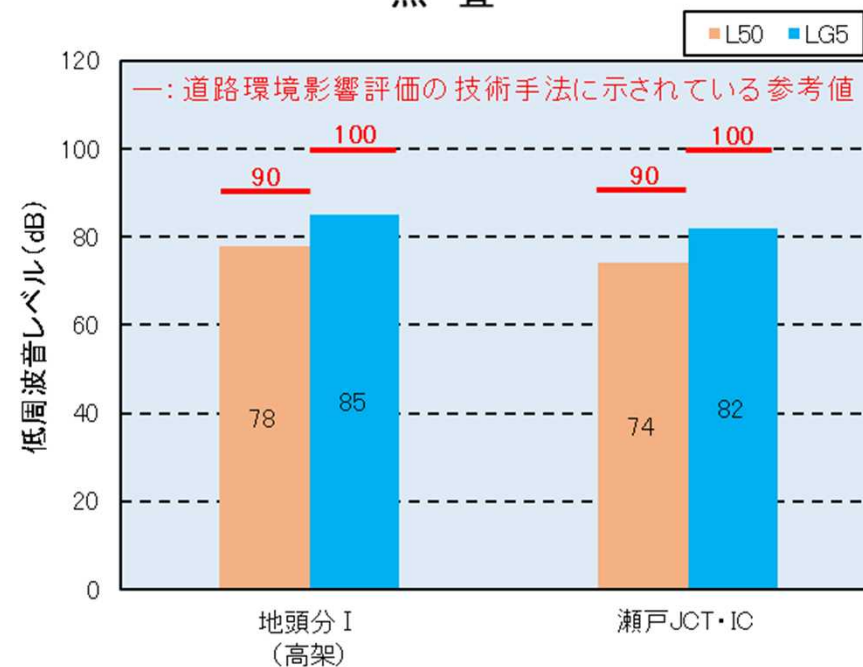
結果概要(低周波音) ⇒ 道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値を満足する

区分	実施時期	評価項目	道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値L50	L50予測結果(最大値)	道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値LG5	LG5予測結果(最大値)	評価結果
環境影響評価	平成12年12月	低周波音	—	—	—	—	—
照査	平成31年2月		90dB以下	78dB	100dB以下	85dB	○

環境影響評価

対象外

照査



- ※ 低周波音は、国、県、関係地方公共団体等において、保全に関する基準が示されていないため、道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値を用いている。なお、環境影響評価時(平成12年)では参考項目のため、予測評価を実施していない。
- ※ 低周波音の予測は住居が対象のため、住居における予測結果を示す。なお、官民境界においても、道路環境影響評価の技術手法に示されている参考値を満足している。
- ※ L50 : 1~80Hzの50%時間率音圧レベル、LG5 : 1~20HzのG特性5%時間率音圧レベルを示す。 ※ IC名は全て仮称である。

環境影響評価及び照査(予測・評価結果(動植物))

● 環境影響評価
 ● 照査(フォローアップ)

実施者: 広島県知事
 実施者: 起業者

実施時期: 平成12年12月
 実施時期: 平成31年2月

	位置付け	分類	主な確認種	写真	主な保全措置内容
動物	種の保存法 (国内希少野生動植物種)	鳥類	ハヤブサ		保全措置不要
	環境省レッドリスト (絶滅危惧Ⅱ類)	鳥類	サシバ		保全措置不要
		両生類	カミサンショウウオ (セトウチサンショウウオ) ※()は環境省RL2020での 表記		保全対象種に選定されていないが、有識者の意見により、工事前に成体、幼生、卵等を保護し、影響の及ばない生息適地に移動させる。工事中に確認された場合も同様に移動させ、個体の直接的な影響を低減する。なお、側溝や集水柵では落下しにくい構造あるいは這い上がれる構造を設置し、落下 ^{へいし} 斃死 ^{いし} 個体の発生を低減する。
		昆虫類	キアシハナダカバチモドキ		保全措置不要
	環境省レッドリスト (準絶滅危惧)	昆虫類	マルケシゲンゴロウ属		道路夜間照明への誘引による影響が考えられるため、LED照明やナトリウムランプ等の誘引効果の低い光源、または、漏れ光の少ない照明器具等を採用し、走光性昆虫類への影響を低減する。
			コウベツブゲンゴロウ		
			スジヒラタガムシ		
植物	環境省レッドリスト (準絶滅危惧)	被子植物	イシモチソウ		保全措置不要

・ハヤブサの写真出典: 福山道路環境調査業務 報告書(平成30年9月)
 ・キアシハナダカバチモドキ、マルケシゲンゴロウ属、コウベツブゲンゴロウ、スジヒラタガムシの写真出典: 福山道路外環境調査業務 報告書(平成28年3月)
 ・サシバ、カミサンショウウオ、イシモチソウについては起業者が撮影したものである。

令和2年2月末現在

必要面積		187,944m ²
未取得面積(残件者数)		22,639m ² (29名)
用地取得率	(面積ベース)	約87%
	(土地所有者 関係人数ベース)	約89%